SYLLABUS

2021 年度　講義要項

1 年（2020 年度以降入学）

和 歌 山 信 愛 大 学

和歌山信愛大学 教育学部 子ども教育学科　2021年度　シラバス　目次　1年（2020年度以降入学）

科目区分			授業科目の名称	教員名	実務家教員＊	単位数	配当年次	授業形態	卒業に必要な科目・単位	頁
共通基礎科目	教養科目	信愛教育の基礎	信愛教育Ⅰ	星野正道	＊	1	1通年	演習	●	1-2
			いのちと倫理	星野正道	＊	2	1後期	講義	●	3
			ボランティア実習	森﨑陽子　江口怜		1	1通年	実験実習	●	4
		教育者の教養	日本国憲法	奥野庸己	＊	2	1前期	講義	●	5
			ヘルスプロモーション科学	松本健治		2	1前期	講義	○	6
			情報処理論	大山輝光		2	1前期	講義	○	7
			国際教育論	相川真佐夫	＊	2	1後期	講義	○	8
			子どもと遊び	大橋眞由美		2	1後期	講義	○	9
		リテラシー	日本語表現	小林康宏	＊	1	1前期	演習	●	10
			英語コミュニケーションⅠ	辻伸幸	＊	1	1前期	演習	●	11
			英語コミュニケーションⅡ	辻伸幸	＊	1	1後期	演習	●	12
			情報処理演習Ⅰ	大山輝光		1	1後期	演習	●	13
		保健体育	スポーツと健康Ⅰ（講義）	森﨑陽子		1	1前期	講義	●	14
			スポーツと健康Ⅱ（実技）	森﨑陽子		1	1通年	実験実習	●	15-16
		教師塾	教職キャリアデザイン	森﨑陽子　辻伸幸	＊	1	1通年（隔週）	講義	●	17
			教職基礎ゼミナール	大山　千森　森﨑　村上　森下　山本　江口	＊	2	1通年	演習	●	18-19
			教職基礎実習	辻伸幸　小田真弓	＊	1	1通年	実験実習	●	20
	地域連携科目	世界紀伊の国わかやまと	世界の中の和歌山	福田光男	＊	2	1前期	講義	●	21
			歴史・文化と風土	小山譽城	＊	2	1後期	講義	○	22
			郷土の自然	柳瀬充男	＊	2	1後期	講義	○	23
		地域探求科目	地域連携フィールド学習	千森督子　江口怜		1	1通年	実験実習	△	24
専門教育科目	理念・理論		教職論	木本毅	＊	2	1前期	講義	●	25
			教育原理	市川純夫　北後佐知子		2	1前期	講義	●	26-27
			保育原理	森下順子	＊	2	1前期	講義	●	28
			教育制度論	木本毅	＊	2	1後期	講義	●	29
			子ども家庭福祉	田中和子	＊	2	1後期	講義	●	30
			教育方法論	岸田正幸	＊	2	1後期	講義	●	31
			教育課程総論	岸田正幸	＊	2	1前期	講義	●	32
			保育の計画と評価	高橋多美子		2	1後期	講義	●	33
			保育内容総論	山下悦子	＊	1	1前期	演習	●	34-35
			図画工作Ⅰ	戸澗幸夫	＊	1	1前期	演習	○	36
			図画工作Ⅱ	戸澗幸夫	＊	1	1後期	演習	○	37
			音楽Ⅰ	溝口希久生　桐山由香	＊	1	1前期	演習	○	38
			音楽Ⅱ	溝口希久生　桐山由香	＊	1	1後期	演習	○	39
			生活Ⅰ	秋吉博之	＊	1	1前期	演習	○	40
			生活Ⅱ	秋吉博之	＊	1	1後期	演習	○	41
			子どもと環境	秋吉博之	＊	1	1後期	演習	○	42
			子どもの表現Ⅰ	戸澗幸夫　桐山由香	＊	1	1後期	演習	○	43
			鍵盤演奏入門	溝口希久生	＊	1	1前期	演習	○	44
	子ども理解		発達心理学	桑原義登	＊	2	1前期	講義	●	45
			教育心理学	村上凡子	＊	1	1後期	演習	●	46
1年合計単位数						60	省令で定める基準単位数13単位			
（うち、実務家教員による単位数）						45				
学部内全学年（1年・2年）合計単位数						125				
（うち、実務家教員による単位数）						95				

●	必修
○	選択必修
△	選択

シラバス（Syllabus　講義要項）の利用方法

1　シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の内容を詳しく記載した文書です。シラバスを見ることにより、当該授業でどのようなことを学べるのか、詳しく知ることができます。

2　シラバスの活用方法

（1）　履修する科目の選択

学生の皆さんは『履修のてびき』、シラバスおよび時間割表を参照し、自分が今年度に履修すべき授業科目を確認の上、期間内に履修登録を行ってください。なお、シラバスは大学ホームページでも公開します。

（2）　教科書・教材の準備

履修する科目が決まったら、シラバスの記載をもとに教科書や教材を準備しておいてください。なお、教科書購入方法については別途案内します。

（3）　時間割・教室の確認

時間割および教室は、ガイダンス等で公表される時間割表を確認してください。

（4）　予習・復習内容の確認

シラバスでは、授業時間中の教育内容はもちろん、授業前後の予習・復習、レポートや課題など、授業時間外での学習についても詳細に記載されています。これは学生の皆さんが授業内容を確実に修得することを支援しています。

（5）　オフィスアワーの活用

授業に関することで分からないことや相談したいことがあれば、担当教員のオフィスアワーを利用して、研究室を訪問してください。オフィスアワーにて各教員が在室している時間帯がわかります。

（6）　成績評価方法の確認

シラバスには、学生が当該授業で到達すべき目標を設定しています。学生がその目標に到達したかを確認するため、成績評価が行われます。成績評価の方法は、シラバスに具体的に記載されており、学生はそれを見ることによって、自分の学習内容がどのように評価されるのかを予め確認することができます。また、成績評価の終了後、自分の成績評価に異議のある場合は、シラバスの成績評価に関する記載をもとに質問することができます。異議申し立ての手続きに関しては『履修のてびき』を確認してください。

（7）　授業改善

大学における授業は、原則シラバスに基づいて行われます。したがって、シラバスの改善が授業の改善につながります。シラバスの記載に不明な点がある場合は、積極的に担当教員に質問してください。

3　シラバスの見方

（1）　配当年次

当該授業科目を履修できる年次を記載しています。

（2）　開講期

「前期」「後期」「通年」の区分があります。

（3）　科目名

当該授業科目の名称を記載しています。

（4）　担当者

当該授業科目を主として担当する教員の名前を記載しています。

（5）　単位

当該授業科目を修得した場合に与えられる単位数を記載しています。

（6）　卒業 必・選

卒業するために必要な必修科目・選択必修科目・選択科目を記載しています。また、卒業要件とは別に、免許・資格取得に関わる必修科目・選択必修科目があるので、間違わないようにしてください。詳細は『履修のてびき』を参照してください。

（7）　授業形態

「講義」「演習」「実験・実習」の区分があります。

（8）　授業の概要

当該授業科目のテーマ、ねらい、内容の概要などについて記載しています。

（9）　授業の目標

学生が当該授業科目において到達すべき目標（「この授業を受け終わった学生は、何ができるようになっているか」）を具体的に記載しています。授業の目標は成績評価に密接に関わっているので、よく確認してください。

（１０）　授業のテーマ及び内容

各回の授業内容を授業の展開に沿って具体的に記載しています。授業を受ける前に必ず確認し、各回の授業内容と授業全体の流れを頭に入れるよう心掛けてください。

（１１）　成績評価方法

成績評価の方法（定期試験、課題レポート、提出物など）、評価の割合などについて具体的に記載しています。

（１２）　教科書・参考書

教科書は授業を受けるにあたって必ず入手すべき文献であり、必要なものです。参考書は当該授業の内容についてより発展的に自主学習を行いたい場合に参照する文献です。また適宜教材として担当教員より指示がある場合があります。

（１３）　授業外の学習方法

授業外における予習・復習について具体的に指示しています。

（１４）　免許・資格

免許・資格のために必要な必修科目・選択必修科目を記載しています。卒業要件に関わる必修科目・選択必修科目・選択科目と区別して、間違わないようにしてください。

（１５）　実務経験と教授内容

当該授業科目を担当する教員が、その分野でどのような実務経験をもっているかを記載しています。

共通基礎科目

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必･選	授業形態
1	通年	信愛教育Ⅰ	星野正道	1	必修	演習

授業の概要	カトリック精神を基盤とした豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指す科目である。旧・新約聖書の内容を読み解くと共に、キリスト教のミサに参加する中で、本学の建学の精神を体得し、キリスト教の愛と奉仕の精神や一人ひとりを大切にするこころを養う。
授業の目標	信愛教育がバックアップする愛と奉仕の道。カトリック精神の基盤である豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指すことによって本学の建学の精神を理解し体得する。自分自身の考えたことを他者と共有するためのプレゼンテーション力と他者の心に心を傾ける傾聴力を養いその能力を開発することをめざす。

回	授業のテーマ及び内容		各回　50 分
1	信愛のモットー「一つの心、一つの魂」について。授業の概要。	8	プレゼンテーションと傾聴・グループ４/関連の新約聖書ルカ 21:1～4
2	信愛の歴史。ショファイユの幼きイエズス修道会の精神と日本における貢献	9	プレゼンテーションと傾聴・グループ５/関連の新約聖書マタイ 20:20～28
3	聖書について知ろう。　ミサを知ろう。　聖書の人間観　旧約聖書　創世記１章、２章	10	プレゼンテーションと傾聴・グループ６/関連の新約聖書Ⅰコリント 12:12～26
4	プレゼンテーションと傾聴の大切さ。現場で求められることへの応用。	11	人間人格の絶対的尊厳について･旧約聖書イザヤ書52章、53 章。現場で求められることへの応用。
5	プレゼンテーションと傾聴・グループ１/関連の新約聖書ルカ 10:25～37	12	平和について：聖フランシスコの平和を求める祈り・旧約聖書サムエル記（上）８章。現場で求められることへの応用。
6	プレゼンテーションと傾聴・グループ２/関連の新約聖書マタイ 6:25～24	13	身近な平和がもたらすもの
7	プレゼンテーションと傾聴・グループ３/関連の新約聖書ルカ 15:11～32	14	前期の自分を振り返ってみよう。　：集団討論

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	通年	信愛教育Ⅰ	星野正道	1	必修	演習

回	授業のテーマ及び内容		各回　50 分
15	マザーテレサの愛と奉仕の心。現場で求められることへの応用。	22	自尊心について
16	マザーテレサ：映像による理解：集団討論	23	いじめと自尊心
17	あなたは大切な存在です。：集団討論。現場で求められることへの応用。	24	クリスマスの意味：新約聖書ルカ 1:26～37，マタイ 1:18～25
18	あなたは赦されています。：集団討論。現場で求められることへの応用。	25	クリスマスの意味：新約聖書ルカ 2:1～21，マタイ 2:1～23
19	あなたには価値があります。：集団討論。現場で求められることへの応用。	26	イエスの十字架と復活
20	心の識別入門	27	信愛スピリット 「いのちへの奉仕」のために信頼され愛される私、信頼し愛する私
21	自分を見つめるためのヒント：新約聖書マタイ 6:16～24	28	1 年間の自分を振り返ってみよう：集団討論

成績評価方法	(1)プレゼンテーションと傾聴への取り組み　50% (2)リアクションペーパー　10% (3)定期試験　40%
教科書	『聖書～新共同訳～〈ＮＩ44ＤＣ〉』日本聖書協会(1996 年 12 月)
参考書	『いのちに仕える「私のイエス」』オリエンス宗教研究所　星野正道著
授業外の学習方法	日常生活や社会の動きを授業を通して考え、修得したまなざしでながめ、分析すること。現代の子どもたちの人生・生活・いのちにかかわるものとして問題意識や提案を主体的にもてるようにする。そのために新聞やその他あらゆるメディアを通して現代社会についての情報を得るようにすること。(週 30 分程度) 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	
実務経験と教授内容	担当教員自身の幼稚園・小学校で園児・児童に教育にあたった経験と保護者・父母・幼稚園教諭への研修をもとに教育現場や保護者からの具体的要望や問題についても講義し対応への模擬体験を行う。 担当教員がカトリック教会の指導者としてかかわっている信愛の創立母体・ショファイユの幼きイエズス修道会会員の日本社会への貢献方法と、カトリック教会を通して出会う多くの人々の現実生活を紹介することによって学生たちの現代社会に取り組む姿勢を養う。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	後期	いのちと倫理	星野正道	2	必修	講義

授業の概要	教育者・保育者に必要な倫理観の涵養を目指す科目である。カトリック的生命倫理を背景に、人生の始まり（生）と終わり（死）について、具体的事例を交えながら考えを深めていく。戦争、殺戮、自殺、虐待、中絶、死刑、貧困など、現代社会における生命倫理の問題をキリスト教的視点から捉え直し、考察を深める中で、学生一人ひとりがひとの命と生きる意味を深く考え、自分なりの考えや意見を持つことを目指す。
授業の目標	教育者・保育者に必要な倫理観の涵養を目指すことをテーマとする。 現代社会における生命倫理の問題をキリスト教的視点から捉え直し、考察を深める中で、学生一人ひとりが人の命と生きる意味を深く考え、自分なりの考えや意見を持つことを目標とする。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	この授業の概要と授業方法・いのちの誕生・自分と他者のいのちを大切にするために必要なことは何か。 以下、毎回現実の社会や教育現場での倫理的問題や要望に触れつつ授業を展開する。	8	貧困と虐待・人の命が大切にされない状況とは
2	成長の歩みの中で・自分の成長を振り返る	9	出生前診断と障害・中絶・自分がもし生まれてこなかったらと考えてみる
3	性の目覚め・自分の性とともに生きるために・多様な性について	10	終末期医療・人の死・死は自分の人生の一部
4	結婚・就労・人間の尊厳・自分のライフデザインを考える	11	自死・いじめと自尊心
5	家庭を築く・他者とともに生きる道	12	死刑について考える
6	新しいいのち・親の気持ちになってみよう	13	差別・暴力・戦争・殺戮・ヘイトクライム、ヘイトスピーチ・紛争解決の方法を探る
7	高齢を生きる・自分とはちがう年代の人々を理解しよう	14	格差と貧困・子どもの貧困・虐待・この問題に教育者・保育者として向き合ってみよう

成績評価方法	集団討論への積極的参加・討論推進的奉仕 50%，定期試験・授業ノート作成 50%
教科書	『いのちへのまなざし【増補新版】』カトリック中央協議会（2017年3月）日本カトリック司教団（著）
参考書	『いのちへの答え』オリエンス宗教研究所（2013年11月）星野正道著
授業外の学習方法	日常生活や社会の動きを授業を通して考え、修得したまなざしでながめ、分析すること。現代の子どもたちの人生・生活・いのちにかかわるものとして問題意識や提案を主体的にもてるようにする。そのために新聞やその他あらゆるメディアを通して現代社会についての情報を得るようにすること。（週 2 時間程度） 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	
実務経験と教授内容	担当教員自身の幼稚園・小学校で園児・児童に教育にあたった経験と保護者・父母・幼稚園教諭への研修をもとに教育現場や保護者からの具体的要望や問題についても講義し対応への模擬体験を行う。 担当教員がカトリック教会の指導者としてかかわっている信愛の創立母体・ショファイユの幼きイエズス修道会会員の日本社会への貢献方法と、カトリック教会を通して出会う多くの人々の現実生活を紹介することによって学生たちの現代社会に取り組む姿勢を養う。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	通年	ボランティア実習	森﨑陽子 江口怜	1	必修	実験・実習
授業の概要		学外でのボランティア活動を通じて、キリスト教の愛と奉仕の精神の体得を目指す科目である。教育・保育・福祉現場や地域の活動にボランティアとして参加することで、社会に貢献する態度を身につける。また、世代を越えた交流を通じてコミュニケーション力を養うと共に、奉仕や支援を通じて周囲の信頼を得、協力態勢を構築する等、支援型リーダーの在り方を学ぶ。				
授業の目標		・キリスト教の愛と奉仕の精神を体得する。 ・社会に貢献する態度を身につける。 ・世代を越えた交流を通じてコミュニケーション力を養う。				

授業のテーマ及び内容

授業計画

事前指導と準備（6時間）

① ボランティア活動の意義・目的などを学ぶ。
② 活動への参加の方法や流れを把握する。
③ 活動先の活動を研究する。
④ 活動へ参加する際の留意事項について理解する。
⑤ 活動の際の「課題」を複数考え、それらの解決に向けた方法を考える。

ボランティア活動（32時間）

① 和歌山県・市、教育委員会等と連携して大学が指定する活動から、学生自身がボランティア先を決め、活動を開始する。

【主なボランティア先】和歌山信愛女子短期大学「子育て広場」、和歌山市地域子育て支援拠点「ドレミ広場」、和歌山市の学童保育「若竹学級」や「児童養護施設」でのボランティア、和歌山県・和歌山市障害者スポーツ大会。他、和歌山県・市主催の教育・福祉イベント、施設等でのボランティア活動

② 活動先で、教育・福祉施設やイベントスタッフの活動補助、乳幼児・児童・障害者等との交流、介護、活動支援や学習補助等のボランティア活動を32時間以上行う。
③ 事前に考えた課題解決の方法を実践、評価し、新たな課題を見いだす。
④ ボランティア活動解決策を実践し、活動をおこなったとする証明を、活動先の担当者に記入していただく。
⑤ 活動内容を、レジュメ(A4用紙40字×36行で2枚以上)にまとめて提出する。

事後指導（2時間）

① 参加した活動を振り返り総括を行う。
② レポート課題を作成し、提出する。

成績評価方法	ボランティア活動への参加及び活動態度 80%，振り返りレポート 20%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『ボランティアへの招待』岩波書店（平成 13 年 3 月）岩波書店編集部
授業外の学習方法	
免許・資格	幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	日本国憲法	奥野 庸己	2	必修	講義

授業の概要	日本国憲法が規定する「基本的人権」についての体系と内容について学習するとともに、国民の基本的人権を保障するための統治機構（国会、内閣、裁判所、地方自治）について学習する。憲法の基本原理を理解したうえで、日本国憲法の各規定を見ていき、それら基本原理が日本国憲法の中でどのように反映され、どのように保障されているか明らかにする。憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。
授業の目標	日常生活において、憲法を特に意識して生活している者は少ないことと思われる。そこで、憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	憲法総論：一般的な憲法の歴史と基本原理をふまえ、日本国憲法の成立過程・構造・基本原理を学ぶ。	8	基本的人権の保障7：生存権、教育を受ける権利などの社会権について意義・内容を学ぶ。
2	基本的人権の保障 1：人権の歴史、類型、保障の範囲など人権に関して概要を学ぶ。	9	基本的人権の保障8：適正手続きの保障などの人身の自由、国務請求権、参政権についてその 意義・内容について学ぶ。
3	基本的人権の保障 2：包括的な人権とされる幸福追求権と法の下の平等についてどのように保障されているか学ぶ。	10	統治1：日本国憲法における国の政治システムである統治の基本原理について学ぶ。
4	基本的人権の保障 3：精神的自由権の総論と精神的自由権のうち、思想・良心の自由について学ぶ。	11	統治 2：三権のうち立法権の意味・概念、及びそれを担う国会の地位、組織、権能について学ぶ。
5	基本的人権の保障 4：精神的自由権のうち、信教の自由、学問の自由について学ぶ。	12	統治 3：三権のうち行政権の意味・概念、及びそれを担う内閣の組織と権能、その他制度について学ぶ。
6	基本的人権の保障 5：表現の自由及び関連する事項について、その意義や重要性について学ぶ。	13	統治 4：三権のうち司法権の意味・概念、それを担う裁判所の組織と特質、違憲審査制度について学ぶ。
7	基本的人権の保障 6：職業選択の自由、居住移転の自由、財産権などの経済的自由権の内容・意義について学ぶ。	14	統治 5：税や予算といった国家の財政と地方自治制度の内容、問題点について学ぶ。これまでの授業内容を振り返る。

成績評価方法	定期試験 80%，授業へ取り組む姿勢・態度 20%
教科書	適宜、必要に応じ資料、レジュメ等を配布する。
参考書	『日本国憲法論第２版』 成文堂 佐藤幸治著 『憲法主義』 PHP 研究所 南野森著 『憲法ってなんだろう』 奈良弁護士会作成 その他、適宜資料を配布する。
授業外の学習方法	授業の復習を週1時間程度行う。 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	弁護士実務に就いている者が全授業を担当する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必･選	授業形態
1	前期	ヘルスプロモーション科学	松本　健治	2	選必	講義

授業の概要	大学生として理解しておきたい健康科学の基礎を学ぶ科目である。わが国の世界最長寿国への歩みと健康作りの３要素、運動、栄養、休養などのライフスタイルのあり方について理解した上で、健康的な生活習慣を身に付けたり、健康に好ましい環境をつくるための知識や能力を高め、将来、教育専門職としての基礎的な教養が身に付くことを目的とする。
授業の目標	ヘルスプロモーションの考え方や健康づくりの方法論を体系的に理解することができ、教育に関する専門職としての意識をもち、将来の地域・職業生活に活かすことを目標とする。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	健康とは、健康教育とヘルスプロモーション	8	休養指針とストレス対策
2	生活習慣病、メタボリック症候群とライフスタイル	9	寿命とスポーツ
3	健康行動・危険行動、行動を理解する	10	生活活動強度と指数
4	健康教育・行動変容理論	11	危険行動理論・喫煙、飲酒、薬物乱用
5	ライフスキル、生きる力、EQ	12	疫学・感染症の３要因とＨＩＶ・ＳＴＤ
6	運動所要量と運動指針	13	潜在危険論とドミノ理論
7	栄養所要量と食生活指針	14	食品環境

成績評価方法	定期試験 80%，出席状況とミニレポートを含む受講態度 20%
教科書	事前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。
参考書	『国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)及び適宜、資料を紹介する。
授業外の学習方法	週２時間程度の復習を行うこと。 試験対策の時間を確保すること。
免許・資格	
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	情報処理論	大山輝光	2	選必	講義

授業の概要	コンピュータを活用して行われる情報処理の基礎を学ぶ科目である。情報社会の光と影、情報機器の安全な取り扱い、インターネットを用いた情報収集など、情報を活用するために求められる基礎的な知識を身につける。必要に応じて演習を取り入れながら学習することで、社会生活を支える基盤となっている情報処理技術について理解を深める。
授業の目標	コンピュータを活用することでどのようなことが可能になるのかを理解する。コンピュータの利点と欠点、情報機器の安全な取り扱い、インターネットの光と影など、情報を活用するために求められる基礎的な知識と技術を身につける。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション（受講に関する注意、授業用コンピュータの利用方法）	8	画像データの種類 画像を扱うアプリケーション
2	情報の収集と活用 インターネットの光と影	9	コンピュータの動作原理と情報処理の流れ
3	ファイルの種類と取り扱い アナログ情報とデジタル情報	10	コンピュータを構成するハードウェアの種類と特徴
4	情報の単位ビットとバイト ビット数と情報の大きさ	11	出力装置の種類と特徴（OCR や OMR、ディスプレイやプリンタ）
5	2進数と16進数 文字コード	12	様々な周辺機器とインタフェース 情報機器の安全な取り扱い
6	文字データと画像データの基礎 基数変換	13	ソフトウェアの種類と役割
7	論理演算 コンピュータの性能と歴史	14	情報通信ネットワークの基礎 ファイル管理

成績評価方法	定期試験の成績 30%，課題への取り組み状況およびその内容 50%， 積極的な受講態度 20% を総合して評価する。
教科書	適宜、資料を配布する。 （『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他）
参考書	『文科系のためのコンピュータリテラシ』サイエンス社 草薙信照 他 『小学生からはじめるわくわくプログラミング』日経BP社 阿部和広 監修
授業外の学習方法	事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。パソコンやスマートフォン等を積極的に活用し、週 2 時間程度の自主的な学習が必要である。
免許・資格	
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	国際教育論	相川　真佐夫	2	選必	講義

授業の概要	グローバル社会において異文化への柔軟な対応を育成する国際理解教育の基礎的理論と実践を学ぶ科目である。文化の特質や、背景をなす社会や国際教育の歴史及び思想に触れながら、異文化を深く理解するための教育実践をおこなうには何が必要かを考える。教育者としての視点から、相互理解の基準となる自文化の様相、所与の環境への適応として形成された歴史を学び、文化を等差優劣の視点でなく、自他に内在する存在として捉える。国際環境における公正な思考と判断力を培うことを目的とする。
授業の目標	国境を越えて行き交う人の接触が多い社会では、交流ばかりではなく摩擦も起こる。現代社会に生きる子どもたちが、異文化間理解力を身につけ、摩擦の問題解決力を育むことができるよう、教育者としても異文化理解力を身につけ、教育の実践を行うことができるようになる。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	国際理解教育概説 国際理解教育とは何か、何故必要か	8	国際理解教育の実践：小学校の実践 小学校でのプロジェクト型国際理解教育
2	国際理解教育概説 国際比較で見る日本の教育の現場と課題	9	国際理解教育の実践：小学校の実践 小学校でのワークショップ型国際理解教育
3	国際理解教育の歩み 「総合学習の時間」と国際理解教育	10	国際理解教育の実践：小学校の実践 小学校での地域連携型国際理解教育
4	国際理解教育の歩み 外国語教育と国際理解教育	11	国際理解教育の実践：中学校の実践 中学校でのプロジェクト型国際理解教育
5	国際理解教育の歩み 諸外国の国際理解教育	12	国際理解教育の実践：高等学校の実践 高等学校でのプロジェクト型国際理解教育
6	国際理解教育のカリキュラム 国際理解教育とクロスカリキュラム	13	国際理解教育の国際動向 OECD: Education at a Glance
7	国際理解教育の実践 国際理解教育と教育現場での実践	14	国際理解教育の国際動向 国際理解教育の総括討議

成績評価方法	定期試験 60%， 発表 40%
教科書	『ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら』 開発教育協会
参考書	『国際理解教育ハンドブック:グローバル・シティズンシップを育む』明石書店　日本国際理解教育学会 『グローバル時代の国際理解教育―実践と理論をつなぐ―』明石書店　日本国際理解教育学会 『生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践』メディア総合研究所(平成 27 年 8 月)石森広美
授業外の学習方法	教科書やプリントでの毎回指定された箇所を事後に読んでおくこと。
免許・資格	
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	後期	子どもと遊び	大橋　眞由美	2	選必	講義

授業の概要	大人が提供する子どものための文化「児童文化」「児童文化財」のみならず、子どもが主体となる子どもの文化「子ども文化」の概要と実践を学ぶ。特に「子ども文化」の中心をなす遊びは、人間関係や環境、言葉や表現、健康などの学びを子どもに提供する。そこには「児童文化財」も関与することから、その扱い方や作り方を体験し、子どもの言語表現や身体表現を導き出すための方法や技術を修得する。これらを通して、遊びの中の学びの意味と可能性を探求し、子ども理解を深め、それらが子どもの発達・発育に及ぼす社会的意義を考える。
授業の目標	子ども理解を深め、子どもの言語表現や身体表現を導き出すための指導方法を修得する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	「子どもと遊び」を学ぶことの意義	8	子どもとおもちゃ
2	子どもにとっての遊びの意味	9	人形劇の様々
3	社会を反映する子どもの遊び	10	ペープサートを作る
4	子ども・絵本・大人の関係性	11	パペット人形などを作る
5	子どもの視点で絵本を読む	12	子どもの発達と児童文化・児童文化財
6	絵本の「読み聞かせ」（1）絵本を読み合う	13	子どもと生育儀礼・年中行事
7	絵本の「読み聞かせ」（2）絵本を楽しむ	14	子どもと祭り・伝承遊び

成績評価方法	定期試験 50%，毎授業時の小レポート 30%，作品 20%
教科書	『新版　児童文化』ななみ書房(2016) 皆川美恵子ほか編著
参考書	『演習　児童文化』萌文書林（2010）小川清美編 『ことばと表現力を育む　児童文化』萌文書林（2013）川勝泰介ほか編著 『ペープサート　大百科』ひかりのくに(2014) 阿部惠著
授業外の学習方法	次回の教科書内容を事前に読んでおくこと、子どもの遊びを観察すること、学んだ内容から独自の課題を見出すこと、および試験対策の時間も確保すること（週２時間程度）。
免許・資格	幼稚園教諭免許選択必修科目
実務経験と教授内容	児童文化学・絵本学研究（博士　人間科学）および図書ボランティア経験のある教員が全回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	日本語表現	小林康宏	1	必修	演習

授業の概要	現代を生きる教養人として必要な、日本語のコミュニケーション力を身につける授業である。「読む／書く」「聞く／話す」ことを主軸とし、目的や条件に応じた音声・文字表現を反復しながら行う演習と、基礎的な音声・文字表現のルールを講義形式で確認する。また、敬語の使い方などの基本的マナーを学習し、生活の基本的な場面においてコミュニケーションする力を身につける。
授業の目標	実用的な文章の書き方、自己を見つめる目を耕し人間性を豊かにする文章の書き方、実用的な音声表現の仕方など、豊かな自己表現の方法を習得すると共に、教養人として必要なコミュニケーション力を身に付けることができる。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	自己紹介の仕方:具体的事柄を入れ自己紹介する。	8	アンケートの基礎:アンケートの方法を知り、行う。
2	ノートの取り方:授業を再現できるノートをつくる。	9	プレゼンテーションの方法:効果的な方法を知る。
3	敬語の基礎:敬語の基本的な種類を知り、使う。	10	レポートの書き方:レポートの手順や体裁を知る。
4	メールの書き方:依頼やお礼のメールを書く。	11	小論文の書き方:フォーマットを知り、小論文を書く。
5	手紙の書き方:基本的な書式とマナーを知る。	12	協働的な話し合い:グループミーティングを行う。
6	説明の方法:説明の順序を知り、説明し合う。	13	文学的文章の書き方:随筆等文学的文章を書く。
7	調べ方の基礎:図書館や Web での調べ方を知る。	14	豊かな音声表現:音読、朗読、群読を行う。

成績評価方法	定期試験 20%, 課題レポート 40%, 演習 40%
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』三省堂(2008年8月)橋本 修他編著
参考書	適宜紹介する。
授業外の学習方法	１週間に２時間程度の予習・復習等を行うこと。
免許・資格	
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	英語コミュニケーションⅠ	辻伸幸	1	必修	演習

授業の概要	高等学校で修得した英語運用力をブラッシュアップし、英語コミュニケーション力の向上を目指す科目である。特に、「聞くこと」「読むこと」に焦点を当てて学ぶ。実際の社会生活で必要となる実践的な場面・内容に焦点を当てることによって、学ぶ必然性を生み出し、高い学習意欲を保ちながら無理なく英語コミュニケーション力を養う。ペアワークやグループワークなどで協働学習やタスク学習を導入して、主体的で対話的な学びを展開する。
授業の目標	1 社会生活における英語の語彙や表現を理解する。 2 社会生活における英語での「聞くこと」「読むこと」の力を特に高める。 3 主体的で対話的に学び英語を用いたコミュニケーション力を高める。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーションと事前テスト	8	Doing Business Online
2	Traveling	9	Housing
3	Daily Life & Shopping	10	Making Deals & Contracts
4	At Restaurants	11	Public Service
5	Job Hunting	12	Banking & Finance
6	At the Office 1（職場関連語句、表現）	13	At Seminars & Workshops
7	At the Office 2（場面や状況説明、スピーチ）	14	News & Media と事後テスト

成績評価方法	定期試験 40%，課題レポート 40%，授業中の取り組み 20%
教科書	『 ILLUMIINATING THE PATH TO THE TOEIC TOEIC L&R TEST 』 金星堂　植木美千子・Brent Cotsworth・山岡浩一・竹内理著 『 英文法授業ノート 』 ぺりかん社　北村 孝一郎著
参考書	なし
授業外の学習方法	分からない語彙は事前に予習として調べておく。 毎回実施する確認テストの準備学習に取り組む。課題や予習・復習は 1 週間に 2 時間程度行う。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	英語コミュニケーションⅡ	辻伸幸	1	必修	演習

授業の概要	英語コミュニケーションⅠで修得した英語運用力を基に小学校現場における英語でのコミュニケーション力の向上を目指す科目である。特に、小学校で必要となる実践的な場面・内容に焦点を当てることによって、学ぶ必然性を生み出し、高い学習意欲を保ちながら無理なく英語でのコミュニケーション力を養う。ペアワークやグループワークなどで協働学習やタスク学習を導入して、主体的で対話的な学びを展開する。
授業の目標	1 小学校教育における英語の語彙や表現を理解する。 2 小学校教育における英語でのコミュニケーション力を高める。 3 主体的で対話的に学び英語を用いたコミュニケーション力を高める。

回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分	
1	ALT の南小学校への初訪問	8	授業を終える
2	ALT とのコミュニケーション	9	幼稚園でのアクティビティ
3	学校給食	10	アサガオの栽培とチョウの一生
4	子供の遊び	11	おにぎりとカレーの作り方
5	最初の授業	12	タウンマップを作ろう
6	授業のスタート	13	日本文化の紹介
7	授業の展開	14	卒業

成績評価方法	定期試験 40%, 課題レポート 40%, 授業中の取り組み 20%
教科書	『Hello, English-English for Teachers of Children』成美堂 相羽千州子 藤原真知子 Brian Byrd/Jason Barrows 著 『 英文法授業ノート 』 ぺりかん社 北村 孝一郎著
参考書	なし
授業外の学習方法	分からない語彙は事前に予習として調べておく。 毎回実施する確認テストの準備学習に取り組む。課題や予習・復習は 1 週間に 2 時間程度行う。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	情報処理演習Ⅰ	大山輝光	1	必修	演習

授業の概要	情報機器を安全かつ有効に活用するための基礎を学習する科目である。パソコン操作の基本的な操作方法を始め、Web ブラウザや電子メールの利用、インターネットを活用した情報検索と情報倫理、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどの基本的なソフトウェアの使い方など、大学で用いられる情報機器を使用するための知識と技能を身につける。
授業の目標	パソコンの実践的な使い方や電子メール、インターネットの活用方法、情報リテラシーを学ぶことにより、コンピュータを安全かつ有効に利用するための知識と技術を習得することを目標とする。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション（受講に関する注意、授業用コンピュータの利用方法）	8	プレゼンテーションソフトによるスライド作成、スライドショー
2	ファイル操作（ファイルの種類、拡張子、サイズ） ワープロソフトによる文書作成 コンピュータの基本操作とインターネットを利用した情報検索、電子メールの使い方	9	表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの統合的な利用
3	ワープロソフトの活用（図表、ワードアート、様々な書式、テンプレートの利用） 情報のデジタル化（ペイントとサウンドレコーダの利用）	10	効果的なプレゼンテーション（アニメーション、画面切り替え効果、発表者ツール）
4	表計算ソフトによるデータ処理の基礎	11	フォトアルバムとプレゼンテーションソフトによるビデオ作成
5	表計算ソフトの活用①（図形やグラフの効果的な使い方）	12	画像の加工・合成
6	表計算ソフトの活用②（関数の利用）	13	Webページの作成、テキストエディタの利用
7	表計算ソフトにおるデータの集計と分析	14	HTML によるプログラミング入門

成績評価方法	毎回の授業中に提示する課題への取り組み状況およびその内容 30%, 課題レポート 30%, 実技試験 30%, 積極的な受講態度 10% を総合して評価する。
教科書	適宜、資料を配布する。 （『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他）
参考書	『文科系のためのコンピュータリテラシ』サイエンス社　社草薙信照 他 『例題30＋演習問題70でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキスト』技術評論社　定平誠
授業外の学習方法	事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。多目的コンピュータ室の機器を積極的に活用し、通常は週 2 時間程度、レポート課題の作成等に際しては 4 時間程度の自主的な学習が必要である。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必･選	授業形態
1	前期	スポーツと健康Ⅰ（講義）	森﨑陽子	1	必修	講義

授業の概要	保健体育の基礎理論について学ぶ科目である。人間の体の仕組みと健康との関連、文化や娯楽（レクリエーション運動）としての価値、運動・スポーツの歴史・使命・仕組み等の制度を理解し、その魅力や楽しさを知るとともに生涯体育の意義を学ぶ。更に、各種競技についてのルールや規則への理解を通じてスポーツへの関心を高め、積極的に生涯体育に取り組めるように繋げていく。
授業の目標	生涯を通しての「健康づくり」のために、身体の仕組みと働きを理解することができる。運動を通した「健康づくり」に対する意識を高め、具体的な対策をたて取り組むことができる。スポーツの魅力や楽しさを知り、積極的に生涯体育に取り組むことができる。

回	授業のテーマ及び内容		各回 50 分
1	生涯スポーツ基本法の理念と生涯体育	8	体の仕組みと健康 (3) 呼吸・循環器の構造と機能、スポーツとの関わりを考える。
2	健康と体力の定義 (1)「健康」の定義を理解する。	9	体の仕組みと健康 (4) エネルギー代謝と運動の関係を理解し、スポーツ時のエネルギー代謝の算出方法を学ぶ。
3	健康と体力の定義 (2)「健康」と「体力」の関係を学びスポーツの必要性を理解する。	10	体の仕組みと健康 (5) 運動と脳・神経系の機能との関係を理解し、精神活動を支えるスポーツの効果について考える。
4	人間の形態の発育と機能の発達との関係 (1) 幼児期から青年期に適切な運動方法を学ぶ。	11	身近なスポーツと健康 (1) 個人スポーツ競技とそのルールについて学ぶ。
5	人間の形態の発育と機能の発達との関係 (2) 老年期にむけて適切な運動方法を学ぶ。	12	身近なスポーツと健康 (2) 集団スポーツ競技とそのルールについて学ぶ。
6	体の仕組みと健康 (1) 骨格系の仕組みと働き、運動との関係を理解し骨の健康を考える。	13	レクリエーションとしての運動：文化や娯楽としてのスポーツの意義を考える。
7	体の仕組みと健康 (2) 骨格筋の種類と仕組み、筋収縮の原理を理解し、筋力トレーニングと健康との関わりを考える。	14	運動・スポーツの歴史・制度：オリンピックを中心に運動・スポーツ普及の歴史と制度について学ぶ。

成績評価方法	定期試験の成績 80%，小テスト・ノート 20%
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	『図説・運動の仕組みと応用 2版』医歯薬出版　中野昭一
授業外の学習方法	週2時間程度の小テスト対策及び予習・復習を行う。定期試験対策の時間を確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	通年	スポーツと健康Ⅱ（実技）	森﨑陽子	1	必修	実験・実習
授業の概要		体の仕組みと運動機能の関連を学びながら基礎体力づくり運動を体験し、グループ活動の中で主体的に学びあい協力しながら運動する喜びを味わう。また自ら考案した体力トレーニングを実施することで健康管理法を身につける。				
授業の目標		「動きの原理」を学びより高い運動技術能力を養う中で「動くことの楽しさ」を体感すると共に、生涯体育の意義を理解し「活動意欲」「コミュニケーション力」の向上を図る。また、生涯を通しての「健康づくり」の為の健康管理法を身につける。				

回	授業のテーマ及び内容	各回 50 分	
1	オリエンテーション　生涯体育の意義、 即時反応運動と仲間作り	8	「バドミントン」⑵ チーム作りと役割分担
2	基礎体力作り⑴ 筋力について	9	「バドミントン」⑶ ダブルスを中心とする 基礎練習
3	基礎体力作り⑵ 瞬発力について	10	「バドミントン」⑷ ダブルスを中心とするルールの習得
4	基礎体力作り⑶ 調整力について	11	「バドミントン」⑸ 実践練習と反省会
5	基礎体力作り⑷ 持久力について	12	「バドミントン」⑹ 団体戦（リーグ戦）と反省会
6	新体力テスト測定と判定 各自のトレーニング対策	13	「バドミントン」⑺ 団体戦（リーグ戦）と表彰式
7	「バドミントン」⑴ バドミントン競技の動きの原理を考える。	14	「バドミントン」⑻ まとめ 夏期休暇中の体力作り課題

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	通年	スポーツと健康Ⅱ（実技）	森﨑陽子	1	必修	実験・実習

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
15	基礎体力づくり (5) 即時反応運動・縄跳び課題	22	「サッカー」(3) 実践練習と反省会
16	「ソフトバレーボールとバレーボール」(1) バレーボール競技の動きの原理を考える　基本練習	23	「サッカー」(4) 試合　まとめ
17	「ソフトバレーボールとバレーボール」(2) 技術レベルに分けて実践練習	24	「バスケットボール」(1) バスケットボール競技の動きの原理を考える　基本練習
18	「ソフトバレーボールとバレーボール」(3) 技術レベルに分けて試合	25	「バスケットボール」(2) チーム作りと役割分担 縄跳び測定
19	「ソフトバレーボールとバレーボール」(4) 試合　まとめ	26	「バスケットボール」(3) 実践練習と反省会
20	「サッカー」(1) サッカー競技の動きの原理を考える 基本練習	27	「バスケットボール」(4) 試合
21	「サッカー」(2) チーム作りと役割分担	28	「バスケットボール」(5) 試合　後期授業のまとめ

成績評価方法	授業ノート 20%，競技技術 70%，自主トレーニングの記録レポート 10%
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	『図説・運動の仕組みと応用 2 版』医歯薬出版　中野昭一
授業外の学習方法	毎時間の授業ノートを作成し反省と改善方法を検討する。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	通年	教職キャリアデザイン	森﨑　陽子 辻　伸幸	1	必修	講義
授業の概要		教員となる夢を実現し、自らが持つ能力を活かすための「大学生活のキャリアデザイン」の形成を進めていく科目である。大学生活や教員としての職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していく力を身につける。自身の現状と能力を再認識し、「ありたい将来像について」を考慮しながら、自己を客観視する視点を養成し、自己理解を深めるとともに、大学生活における学習活動（キャリアデザイン）の構築を図る。				
授業の目標		現在の保育・教育現場の要請に応えられる、保育者・教育者の在るべき理想像を追及し目標とする。また自己解析を行い高い向上心を持ち目標に至るまでの道のりを自ら計画し、必要とされる保育者・教育者の基礎力・素養を体得していく。				

回	授業のテーマ及び内容		各回 50 分
1	オリエンテーション	8	教職基礎実習事前指導(幼保)3
2	保育者・小学校教師等を目指すために	9	保育者から学ぶ
3	教職基礎実習事前指導(幼保)1	10	小学校教員から学ぶ
4	教職基礎実習事前指導(小学校)1	11	任命権者から学ぶ
5	教職基礎実習事前指導(小学校)2	12	公務員から学ぶ
6	教職基礎実習事前指導(小学校)3	13	企業から学ぶ
7	教職基礎実習事前指導(幼保)2	14	自身のキャリアロードマップの作成

成績評価方法	課題レポート 70%,　授業中の取り組み 30%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『教師になるには』一ツ橋書店　長瀬拓也編著 『キャリアデザイン入門(Ⅰ)基礎力編』 日経文庫　大久保幸夫著 『キャリアデザイン入門(Ⅱ)専門力編』 日経文庫　大久保幸夫著
授業外の学習方法	1週間に1時間程度の予習や復習としての読書やレポート課題等を行う。
免許・資格	
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必･選	授業形態
1	通年	教職基礎ゼミナール	大山輝光　千森督子 森﨑陽子　村上凡子 森下順子　山本紀代 江口怜	2	必修	演習
授業の概要		教育者になるために必要な大学での学び方を修得するとともに、和歌山県の教育的問題を探求し、4年間の課題を見いだす科目である。10人程度の少人数に分かれ、大学での学びについてのオリエンテーション（図書館ガイダンス、情報機器の活用法などを含む）をはじめ、大学生として求められる講義や演習への参加姿勢、有効なノートの取り方や活用方法について学ぶ。また、和歌山県の幼児・初等教育における課題を探求し、レポートにまとめ発表することで、レポートの書き方やプレゼン方法など、情報共有を図る手法を身につける。さらに、ゼミ生間や担当教員との交流を通して、所属意識の涵養をねらう。				
授業の目標		到達目標は、1）文章作法、プレゼンテーションの方法等、学ぶための基本的な能力を身につけること、2）地域の教育の諸課題に関心をもち、その課題に関する文献資料やインターネット上の情報を主体的に収集し、的確に整理と解釈ができるようになること、3）収集した資料をもとに情報を要約し、わかりやすく情報提示をして発表する能力を身につけること、4）自分の意見を適切に表明し、また他者の意見を傾聴することにより、仲間や教員と対話による交流をすることである。				

回	授業のテーマ及び内容		各回　100 分
1	オリエンテーション：科目のねらい、到達目標、評価方法、進め方について	8	現代における教育の諸課題―グローバルな視点、ローカルな視点の双方から―
2	大学で学ぶことの意義と学ぶ方法	9	アカデミック・スキルを磨く　③体験学習の報告書の作成
3	図書館の利用の実際／ICT機器の活用方法：インターネットでの資料収集の仕方	10	インターネット上で収集した資料の要約と考察
4	ICT機器の活用方法：インターネットでの資料収集の仕方／図書館の利用の実際	11	教育に関する問題意識に基づいた専門図書の選書と精読
5	アカデミック・スキルを磨く　①論説文を読み解く	12	発表の準備　配布資料の作成
6	アカデミック・スキルを磨く　②文章作法の基本、正しい引用の仕方	13	問題意識に基づいたテーマ別発表
7	教育原論：教育史、教育思想の振り返り及び教育の目的と意義	14	前期まとめ－学んだことの振り返りと自己評価－

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必･選	授業形態
1	通年	教職基礎ゼミナール	大山輝光　千森督子 森﨑陽子　村上凡子 森下順子　山本紀代 江口怜	2	必修	演習

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
15	和歌山における子どもの福祉と教育に関する全般的課題	22	論文作法ーテーマに基づいた論文・レポートの書き方
16	和歌山における幼児教育の課題	23	効果的なプレゼンテーション方法
17	和歌山における初等教育の課題	24	発表に向けた準備：配布資料の作成
18	問題意識と地域の教育課題に基づいた研究テーマの設定と資料収集	25	発表に向けた準備：プレゼンテーションデータの作成
19	テーマに基づいたフィールドワーク	26	テーマ別学修成果の発表及び意見交流、相互評価①
20	フィールドワークの記録の作成	27	テーマ別学修成果の発表及び意見交流、相互評価②
21	資料の整理と焦点化	28	学修内容と成果に関する振り返り、今後の学びの展望

成績評価方法	前期提出報告書 20%，発表 30%(前期、後期各１回)，後期発表資料 40%， 最終レポート 10%
教科書	『なせば成る！スタートアップセミナー学修マニュアル(三訂版)』山形大学出版会　なせば成る!編集委員会編 『なさねば成らぬ!「なせば成る！」使いこなしガイドブック(新版)』山形大学出版会　山形大学基盤教育院編
参考書	『幼稚園教育要領解説（平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月）文部科学省 『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月）厚生労働省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月）文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月)内閣府・文部科学省・厚生労働省
授業外の学習方法	週 2 時間程度、復習と課題に取り組むと共に、次回に行われる教科書の内容を予習しておくこと
免許・資格	
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	通年	教職基礎実習	辻伸幸 小田真弓	1	必修	実験・実習

授業の概要	小学校、幼稚園、認定こども園などでの現場体験／観察実習を通して、教育者・保育者の仕事理解を図る科目である。和歌山市内の公立小学校で２日、幼稚園または認定こども園で２日、和歌山信愛幼稚園で１日の現場体験・観察実習を中心とした実習を行う。教育現場の教員が働く姿や子どもの様子を観察し、教師の職務を理解すると共に、目指すべき将来の教育者・保育者像の具現化を図る。さらに、幼児・児童との関わりを通して、以降の学修課題を見いだし、免許・資格取得に向けて学修意欲向上を目指す。
授業の目標	実際の保育・教育現場での現場体験・観察実習を通して、教員や保育者が働く姿や子どもの様子を観察し、それらの職務を理解すると共に、魅力を発見し教育者・保育者を目指す意識を高める。

授業のテーマ及び内容

小学校での実習:2 日間
和歌山市内の公立小学校での現場体験・観察実習を通じて、教師の職務への理解を深める。
・小学校教員の魅力と仕事内容を知る。
・児童の見方、児童理解の方法を身につける。
・児童への働きかけ方を知る。
・学級運営・児童や教師の動きに関心を持つ。
・基本的な指導方法及び指導内容を学ぶ。

幼稚園または認定こども園、保育所での実習:3 日間
和歌山信愛幼稚園及び、和歌山市内の幼稚園または認定こども園、保育所での現場体験・観察実習を通じて、保育者の職務への理解を深める。
・幼稚園または認定こども園、保育所の役割・実態を知る。
・幼稚園教員、保育士の魅力と仕事内容を知る。
・幼稚園教員、保育士の幼児への関わりを学ぶ。
・乳幼児の見方、乳幼児理解の方法を身につける。
・学級運営・乳幼児と保育者の動きに関心を持つ。

成績評価方法	現場体験・観察実習記録 50%, レポート課題 50%
教科書	適宜、資料を紹介する。
参考書	『教師になるには』一ツ橋書店 長瀬拓也編著 『幼稚園教師になるには』ぺりかん社 大豆生田啓友・木村明子著 『保育士になるには』ぺりかん社 金子恵美編著
授業外の学習方法	授業前と授業後のレポート課題に取り組む。
免許・資格	幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	小学校教員・幼稚園教員として実践してきた経験者が全ての回において、教育者・保育者の現場での基礎的実習を指導する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	世界の中の和歌山	福田　光男	2	必修	講義

授業の概要	和歌山の世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」と「和歌山の偉人」を主題に、世界に誇る和歌山の魅力を学び、世界に発信できる力を養う科目である。「高野山」「熊野三山」「吉野・大峯」の山岳霊場とそこに至る「高野山町石道」「熊野参詣道」「大峯奥駈道」の参詣道、そして、人々の信仰紀伊山地の大自然によって形成された「文化的景観」が世界遺産に選ばれた理由と意義を探る。また、濱口梧陵、華岡青州、南方熊楠、陸奥宗光等、和歌山が世界に誇る偉人の業績に触れ、彼らを輩出した和歌山の風土と歴史について考察する。「ひと・もの・こと」に焦点をあて、経済的にも文化的にも独自に繁栄してきた世界に誇る和歌山の素晴らしさについて検討していく。
授業の目標	和歌山の歴史・地理を中心に和歌山のもつ魅力について学ぶ。また、和歌山の「ひと・もの・こと・つながり」に焦点をあて、世界に輝く偉人を生んだ和歌山に誇りをもち世界に発信しようとする豊かな心を培う。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	若山・和歌山・WAKAYAMA・海と山と川について	8	医学への貢献：華岡青州等について
2	紀伊半島のひと・もの・ことについて・風土と歴史	9	和歌山から世界へⅠ：南方熊楠と松下幸之助について
3	世界に開かれた紀伊湊について	10	和歌山から世界へⅡ：陸奥宗光について
4	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」・高野山について	11	世界の中の和歌山・産業について
5	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」・熊野三山と参詣道について	12	世界の中の和歌山・自慢について：みどりとみずとみちについて
6	世界の中の日本・根来衆と雑賀衆について	13	和歌山から世界へ発信すること・つながりについて
7	世界津波の日・濱口梧陵について	14	すばらしき和歌山・世界に誇る和歌山について

成績評価方法	定期試験の成績 60%，毎時間の振り返りシート 20%，発表会の内容 20%
教科書	『わかやま何でも帳』（和歌山県教育委員会）
参考書	『和歌山県史』『和歌山市史』『小学校の各種の副読本』
授業外の学習方法	次回に行われる内容について、教科書やその他の資料で調べておくこと。（週 2 時間程度） 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	歴史・文化と風土	小山　譽城	2	選必	講義

授業の概要	日本各地の風土と歴史・文化を概観するとともに、紀の国和歌山の歴史と文化について、古代から現代までの歴史上重要な出来事や文化財を事例にあげ、中央の歴史や文化とどのように関連するのか学習する。史料に基づいて史実を検証する態度を身につけると共に、和歌山の歴史と文化について幅広く理解を深める。和歌山の歴史と文化を学ぶことによって、郷土に誇りを持ち、周囲の人々にその特徴を語れるようになることを目標とする。さらに、他国の歴史と文化を尊重する姿勢と教養の修得を目指す。
授業の目標	紀の国の歴史や文化と風土について、中央の歴史上重要な出来事とどのように関連するのか考察する。また、紀の国は自然豊かな景観と多くの文化遺産に恵まれ、進取の精神に富んだ人々が多く、それらの人々が各地の産業に与えた影響などを事例に学習する。そのため、史(資)料に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史・文化と風土について幅広く理解を深める。紀の国の歴史と文化の重要事項を事例に学ぶことによって、自分の郷土の歴史や文化に関心と誇りを持ち、周囲の人々に地域の歴史を興味深く、わかりやすく語れるような人材を育成する。さらに、他国の歴史と文化をも尊重する姿勢と教養が身に付く授業を目標とする。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	各地域を理解するには、地域の歴史・文化・風土を理解することが重要であることを学習する。	8	豊臣秀吉の紀州攻めについて宣教師ルイス・フロイスの報告書と関連して学習する。
2	古代の紀の国とはどのような状況であったのか、住居遺跡や古墳などを中心に学習する。	9	城下町和歌山について、宣教師ムニョスがどのように称賛したか、当時の実情を学習する。
3	「万葉集」と紀の国について、有間皇子事件や天皇・上皇の和歌浦行幸などを学習する。	10	紀の国に徳川御三家が置かれた理由について学習する。
4	世界遺産に登録された熊野三山と熊野古道について学習する。	11	江戸時代の紀州藩の政治と文化について学習する。
5	世界遺産に登録された高野山や町石道について学習する。	12	幕末・維新期の紀州藩の政治的動向について学習する。
6	源平の合戦と熊野水軍、中世の武士団湯浅党について学習する。	13	近代の和歌山がどのようにして発展してきたか、その歴史について学習する。
7	織田信長の紀州攻めについて宣教師ルイス・フロイスの報告書と関連して学習する。	14	紀の国の歴史・文化と風土の授業内容を総括し、その特徴を考察する。

成績評価方法	定期試験 50%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 30%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『和歌山県謎解き散歩』　新人物往来社文庫　(平成 24 年 6 月) 小山譽城　編著
授業外の学習方法	各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。(週 2 時間程度) 試験・小テスト対策、課題作成の時間も確保すること。
免許・資格	
実務経験と教授内容	高等学校や大学での授業経験、『和歌山県教育史』や和歌山・海南・御坊・田辺市などの市町村史の編纂に携わった実務経験・研究成果を授業で活用する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必･選	授業形態
1	後期	郷土の自然	柳瀬　充男	2	選必	講義

授業の概要	変化に富んだ海岸線や緑豊かな山々、清らかな河川、そしてそこに形成される多種多様な生態系など、和歌山の豊かな自然環境について学ぶ科目である。多様な生態系とそこに住む動植物について、その特徴や重要性を学ぶと共に、開発や乱獲、地域の荒廃、外来種の侵入など、生物多様性を脅かす危機と課題を、県が策定した『生物多様性和歌山戦略』を教材に学ぶ。
授業の目標	最初に世界的な視野で自然を理解し、日本、和歌山、自分の生活している地元の自然を理解させる。テーマを決めて地元の調査研究を行い、発表する。和歌山の自然を正しく理解し、学生自らきめたテーマで地元の自然を調べ発表させることで、積極的に自然保護に取り組むことができ、和歌山の情報発信ができる能力を養う。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	ガイダンス：和歌山を知る。	8	日本の外来生物と和歌山の外来生物について学ぶ。
2	和歌山県の山と川について学ぶ。	9	和歌山の天然記念物について学ぶ。
3	和歌山県の気象と自然災害について学ぶ。	10	和歌山の温泉について学ぶ。
4	世界のバイオーム・日本のバイオーム・和歌山のバイオームについて学ぶ。	11	和歌山県版自然百選について学ぶ。
5	和歌山の海について学ぶ。	12	和歌山の自然のすばらしさの伝え方を学ぶ。
6	和歌山の農産物について学ぶ。	13	農産物の流通と食文化について学ぶ。
7	日本と和歌山の絶滅種と絶滅危惧種について学ぶ。	14	和歌山の自然のすばらしさ発表会・まとめ

成績評価方法	定期試験 50%，課題レポート 30%，受講態度・授業への参加度 20%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『生物環境の科学』放送大学教育振興会（2016 年 3 月）加藤和弘 『わかやま何でも帳』和歌山放送（平成 25 年 2 月）和歌山県教育委員会 『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書(平成 19 年 5 月)福岡伸一
授業外の学習方法	週2時間程度の復習及び課題レポート等を行うこと。 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	通年	地域連携フィールド学習	千森督子 江口怜	1	選択	実験・実習

授業の概要	地域の文化や特性を地域と連携したフィールド学習で見いだす、夏期集中型の科目である。和歌山県日高川町と連携し、宿泊を伴う５日間の実習を現地で行う。現地調査や文化体験、地域住民との交流を通して豊かな自然と、歴史・生活文化が織りなす郷土の魅力を再発見するとともに、少子高齢化に伴う過疎の現状を認識し、地域への愛情と地域課題解決に向けた熱意を育む。さらに、地域住民との交流を通して、多様な世代と良好な関係を築く、コミュニケーション力の育成を目指す。
授業の目標	フィールド(実社会の現場)での調査や地域住民との交流、文化体験を通して、地域の文化や特性、魅力が発見でき、地域課題解決に向けた熱意が育める。また、多様な世代と良好な関係を築け、コミュニケーション力育成を目標とする。

授業のテーマ及び内容

授業計画
1.事前学習:(2時間)
　和歌山県の地域文化や地域特性、抱える地域課題について学ぶ
　フィールド調査地の地域文化や地域特性、抱える地域課題について学ぶ
　実習内容の検討、準備

2.フィールドでの実習:5日間
　現地視察、現地調査、住民との交流、文化体験

3.事後学習: (3時間)
　調査成果の整理、考察、まとめ、レポート作成

成績評価方法	課題レポート 60%, 積極的な実習態度 40%
教科書	適宜、資料を配布する
参考書	『フィールドワーク事始め―出会い、発見し、考える経験への誘い』御茶の水書房　小馬徹 『フィールドワーク教育入門　コミュニケーション力の育成』玉川大学出版部　原尻英樹
授業外の学習方法	地域に関する書籍や資料を学習し、抱える地域課題についても理解しておく
免許・資格	
実務経験と教授内容	

専門教育科目

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	教職論	木本毅	2	必修	講義

授業の概要	教職の意義及び教員の役割・職務内容・研修・服務等について学ぶ。子どもの成長に果たす教師の役割と倫理、制度的位置づけ、教職に必要な資質と能力、理想の教職観、職務の具体的内容、教師の仕事の実際、指導法と学習理論、学校運営の理論および就学前教育について学ぶ。また、教職・保育職への進路選択を学ぶ。
授業の目標	学校教育及び就学前教育・保育について、教職・保育職の社会的・歴史的意義と役割及びその職務の内容・あり方、職務上・身分上の義務さらに研修の意義、教員・保育士の養成と進路、校（園）内外の連携する教育・保育の在り方等について理解を深める。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	人類と教育・保育の果たす役割と学校・保育の誕生。	8	学習理論②(学習動機論―意欲・達成と原因帰属)
2	教育・保育の歴史的・社会的意義と役割。	9	学習理論③(学習動機論―意欲と達成、授業論)
3	教員・保育士の職務①(学級経営、学習指導)	10	わかる・楽しい授業・学習・保育法のストラテジー。
4	教員・保育士の職務②(学級経営、学習指導、養護)	11	教職・保育職の養成と研修・力量形成とその進路。
5	教員・保育士の職務③(特別活動・行事、人づくり)	12	学校・幼稚園・保育所の運営(チームと地域連携)
6	指導法概論(よい授業・よい保育法の在り方)	13	特別支援教育・障害児教育の理論と実際。
7	学習理論①(教育心理学―行動・認知主義の理論)	14	学校教育、幼保・こども園の教育の現状と課題。

成績評価方法	定期試験 60%, 確認小テスト 25%, 授業への取り組みの姿勢(発表、課題レポート) 15%
教科書	『新教職論』ウィング(令和元年) 木本毅著
参考書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
授業外の学習方法	授業の復習及び予習、指示された課題・レポートの作成。(週 2～3 時間程度) 定期試験および確認小テスト（2回）のための自宅学習時間も十分確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者がすべての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	教育原理	市川　純夫 北後　佐知子	2	必修	講義
授業の概要		教育の理念並びに教育に関する歴史、思想、制度、業績等を学ぶ科目である。教育という営みを思想、哲学、業績、人物から学問的にとらえ検証する。教育の意味、歴史、近代学校制度の成立、現代学校教育の状況と課題、教育課程、教授法等を学問的に検証する。				
授業の目標		教育という営みの本質として「子どもの発達を励ます」という視点を身に着けるために、具体的事例（子どもの姿や学校教育の現状）と結びつけ理解を深めることを目指す。そのため、教育現場の映像素材を随時活用する。同時に教育を支える教育思想や教育制度の現状、歴史についての基本的事項を学ぶ。また学校教育だけでなく、地域の教育にも視野を広めることが教員の資質として大切と考え、社会教育、生涯教育の分野の学習も進める。				

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	教育学の意義及び教育の本質と目標：教育を研究する教育学の意義と方法を学ぶ。さらに、教育の本質である「人間が学び発達する」ということの意味を、議論を通して理解する。	7	教育の歴史と制度：近代国家としての教育制度の整備の歴史を解説し、諸外国と日本の教育制度の特徴を理解する。また、「個人の発達」に視点を置いた教育のとらえ方と、「社会の存続発展」に視点を置いた教育のとらえ方の相克、調和についても考察する。
2	人間の発達段階と教育：誕生から成人への発達する各時期の特徴を理解し、人間発達のメカニズムを学ぶ。人類の発達の特性を動物の発達との比較で原理的に理解する。発達理解の歴史にもふれ、「通常化された早産」などの意味も理解する。	8	教育の思想と学校の役割Ⅰ：「学校教育の祖」と言われるコメニウスの思想と背景を解説し、学校教育を支える教育内容・方法の思想について知る。その上で、現在の学校の教科教育の意味や、道徳教育の意味について理解を深める。
3	人類と教育の歴史：教育の歴史を人類の歴史と結びつけて大きく理解する。人類の発達と個人の発達を重ね合わせて理解し、二足歩行の成立、手という存在の出現、脳の発達、言語の獲得、文字の発明などをたどり、発達についての理解を深める。	9	教育の思想と学校の役割Ⅱ：ヘルバルトの「人格陶冶」の思想を解説し、学校教育の管理、教授、訓育という分野分けを知り、それぞれの関係性を理解する。特に道徳性の育成と知識の獲得の関連性の理解に注目する。
4	発達と言語：人間の特性としての言語をとりあげ、言語の獲得が人間の発達に果たす大きな役割につて理解する。言語と思考についてのヴィゴツキーの論なども解説する。	10	教育の思想と学校の役割Ⅲ：学校を否定するイリッチの「脱学校論」を敢えて素材として解説し、学校制度の持つ根本的な困難点とその克服について考える。いかにして子どもの学習意欲を高めながら、学校教育を展開するかを、具体的な学校の事例を取り上げて解説する。
5	教育の要素とその相互関係：子ども、教員、家庭、保育所･幼稚園･学校など、教育の構成要素及びそれらの相互関係を解説する。	11	日本の学校教育の特性：日本の学校教育制度の歴史を説明し、そこから出てくる現代の我が国の学校の特性を解明する。また、諸外国の学校についても解説し、我が国の学校との比較検討を行い、その文化的背景の違いを考察する。
6	教育の思想：中世の教育思想、ルソー、ペスタロッチ、デューイなどの新教育思想の展開と我が国の教育への影響などを解説し、「人間の能力を引き出す」教育のとらえ方を理解する。	12	現代社会の教育課題Ⅰ（地域と教育）：地域社会での教育の営みの諸相を解説する。生涯学習社会といわれる教育観の発展を理解する。また、学校と地域が結びついて子育てするという観点から、コミュニティ・スクールの考え方も知り、地域に開かれた学校のあり方を考える。

13	現代社会の教育課題Ⅱ（子どもの発達を巡る問題）：現代の子どもの発達に歪みをもたらしかねない社会の諸環境を考察し、子どもの体の問題、子どもの食べ物の問題、遊びの問題などを取り上げて、その現状と問題克服の方法を考え合う。	14	現代社会の教育課題Ⅲ（教育改革の動向）：現在の教育が抱えている諸問題の解説と、近年の教育政策、教育改革動向について解説する。特に「学力」問題、道徳教育の問題、保護者と学校の関係など、具体性を持たせて考え合う。

成績評価方法	定期試験 60%，課題提出物 40%
教科書	毎回、授業内容のレジメと資料を配布する。
参考書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
授業外の学習方法	授業で行われた内容を復習しておくこと。（週 2 時間程度） 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	保育原理	森下順子	2	必修	講義

授業の概要	保育を展開していくときに保育者として大切な基礎・基本を学ぶ。例えば、保育の意義と理念、保育の思想と歴史的変遷、保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法の基本、保育の現状と課題などについてである。保育に関する諸理論を学習し、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の観点から、望ましい保育の専門性や保育の本質について理解を深める。また幼児理解とともに、保護者支援と地域支援の重要性を学び、幅広い視野から保育ができる基礎を培う。
授業の目標	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育内容と方法の基本について理解する。また、保育の歴史・思想・保育制度の変遷について学び、現在の保育の現状や課題にも関心を持ち、保育者としての基礎的な理解を深めることができる。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション・保育現場の日常を知る 保育の理念と概念	8	保育の基本Ⅲ「発達過程・個別配慮の必要な子どもへの支援」
2	子どもを取り巻く環境と保育の社会的意義 保育現場や家庭支援の現状	9	子育て支援と地域連携の必要性と対応
3	保育の基本Ⅰ「養護と教育・倫理観と専門性」	10	保育内容について（ねらい・内容・領域と方法）
4	保育の歴史と思想、歴史的変遷Ⅰ（諸外国）	11	乳幼児期にふさわしい保育内容について
5	保育の歴史と思想、歴史的変遷Ⅱ（諸外国）	12	子ども理解 「生活と遊びを通して総合的に行う保育」
6	保育の歴史と思想、歴史的変遷Ⅲ（日本）	13	計画・実践・記録・評価・改善の過程の重要性について
7	保育の基本Ⅱ「環境を通して行う保育・発達過程に応じた保育」	14	保育の現状と課題について まとめ

成績評価方法	定期試験 70%， 課題レポート 20%， 授業への取り組み 10%
教科書	『最新 保育原理－わかりやすく保育の本質に迫る－』保育出版社 上中 修 『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月） 厚生労働省
参考書	『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 汐見 稔幸他
授業外の学習方法	授業内容を、教科書や配布資料などで１週間に２時間程度の予習復習をする。子どもに関する時事問題を深める。地域の子育て環境や子どもの育つ環境の現状を知る。
免許・資格	保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	教育制度論	木本毅	2	必修	講義

授業の概要	西洋及び我が国の教育を歴史的・制度的に検証するとともに我が国近代公教育の成立過程とそのシステムを教育の法律主義に基づく教育行政の視点から学習指導要領を含めて多面的に検証・評価する。古代社会から中世・近世を経て教育がどのように発展・進化して、近代公教育が誕生してきたか、とりわけ近代日本における法律主義に則る学習指導要領に基づく公教育のあり方についてさらに地域と連携する教育および学校安全を確保する教育のあり方等を俯瞰する。
授業の目標	西洋及び我が国の近代公教育の制度と歴史および思想について俯瞰するとともに、わが国の明治以降の近代教育の成立成及び戦後の教育の法律主義に基づく教育行政を学習指導要領を含めて、その在り方と方法について理解する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	古代社会と教育の起源・誕生およびその内容。	8	教育の法律主義①(教育に係る法令、法規、規則)
2	古代ギリシャ・ローマと中世・近世の教育の思想と制度。	9	教育の法律主義②(教育に係る法令、法規、規則)
3	欧米の近代公教育制度の成立と発展及び思想。	10	学習指導要領(改訂と変遷の歴史及び課題等)
4	我が国の教育の誕生と歴史及びその思想と制度。	11	平成 20・29 年度告示学習指導要領とその課題。
5	我が国近代公教育の制度と思想(明治から戦後)	12	国と地方の教育財政と社会教育の状況と課題。
6	欧米と我が国における現在の教育の制度と課題。	13	特別支援教育の歴史と制度及び展望と課題。
7	我が国の教育行政の成立(理念と領域および制度)	14	就学前教育の制度と課題(幼稚園、保育・こども園)

成績評価方法	定期試験 60%, 小テスト 2 回 25%, 課題レポート・発表・授業への取り組み 15%
教科書	『新教育制度論』ウイング印刷 木本毅著
参考書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説』各教科等編 東洋館出版社(2018年)文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 文部科学法令要覧
授業外の学習方法	復習および次回の教科書内容の予習。(週 2～3 時間程度) 定期試験、確認テスト(2回)および課題レポート作成の時間も十分確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	子ども家庭福祉	田中　和子	2	必修	講義

授業の概要	子どもをとりまくわが国の子ども家庭福祉の問題を概観し、子どもの権利擁護への理解を深める科目である。現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権について学ぶと共に、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望についての理解を目指す。
授業の目標	保育士は、児童福祉法にその法的根拠をもつ福祉専門職である。保育士として社会に貢献するうえで欠かすことのできない、子ども家庭福祉の歴史・理念・制度、子どもと家族を取り巻く現代的課題について学ぶ。 ・子ども家庭福祉についての基礎知識を習得する。 ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ・子ども家庭福祉にかかわる専門職の重要性について理解する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション　保育士と子ども家庭福祉	8	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（4） ・児童虐待防止
2	子ども観と子ども家庭福祉の歴史	9	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（5） ・社会的養護
3	現代の子ども家庭福祉における基本理念（1） ・児童福祉法、子ども家庭福祉の関連法制度	10	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（6） ・ひとり親家庭への支援／DV 防止
4	現代の子ども家庭福祉における基本理念（2） ・子どもの権利	11	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（7） ・障害児福祉サービス
5	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（1） ・乳幼児期の保育・教育	12	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（8） ・子どもの健全育成
6	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（2） ・子育て支援サービス	13	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（9） ・少年非行等への対応 ・学校における子どもの人権問題への対応
7	子ども家庭福祉の制度・機関・実践（3） ・母子保健	14	まとめ　子ども家庭福祉の動向と展望

成績評価方法	定期試験 70%, 課題 ・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 10%
教科書	『新・基礎からの社会福祉７　子ども家庭福祉［第２版］』ミネルヴァ書房（平成30年4月）木村容子・有村大士編著
参考書	各回の授業で資料を配布する。
授業外の学習方法	各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。（週２時間程度） 試験・小テスト対策、課題作成の時間も確保すること。
免許・資格	保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	児童相談所・児童福祉行政経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	教育方法論	岸田　正幸	2	必修	講義

授業の概要	情報機器及び教材の活用を含む、教育の方法及び技術の修得を目指す科目である。教育方法学の概要を学ぶとともに、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」を実践的に学ぶことで、理論と実践の融合を目指す。あわせて、視聴覚教材・メディアの活用、教育情報の分析、加工・処理、提示方法を身につけることを目的とする。
授業の目標	教育方法の意義を理解するとともに、これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成ための教育方法とは何か、またその授業を展開するための方法や技術を習得し、併せて情報機器活用の効果的な活用能力を身につける。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	教育方法の基礎的理論と実際	8	情報機器の活用①（効果的な情報機器の活用）
2	授業の構成要素とよい授業	9	情報機器の活用②（情報機器活用の実践事例研究）
3	よい授業の実践事例と指導方法（主体的・対話的で深い学びとは）	10	情報機器の活用③（情報機器活用能力の育成と情報モラル）
4	指導と評価の一体化（学習評価の基礎的な理解）	11	指導内容と学習指導案
5	目的に応じた授業の実際①（ねらいを達成するための指導とは）	12	教材研究の重要性と教材研究の在り方
6	目的に応じた授業の実際②（授業の構成要素とその役割）	13	優れた教育実践と事例研究
7	目的に応じた授業の実際③（話法・板書などの基礎的スキル）	14	模擬授業

成績評価方法	定期試験 70%，ミニレポート 30%
教科書	各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。
参考書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『新しい教育の方法と技術』ミネルヴァ書房(平成 24 年 5 月) 篠原 正典，宮寺 晃夫
授業外の学習方法	毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。（週 2 時間程度） 試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験のある担当者がすべての回を担当する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	教育課程総論	岸田　正幸	2	必修	講義

授業の概要	カリキュラム・マネジメントを含む、教育課程の意義及び編成の方法を学ぶ科目である。教育基本法とその意義や関係法規、学習指導要領による教育課程編成の基準と関連事項及び教育の内容教育課程の編成・実施・評価・改善の過程について学習する。学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理念・内容を理解し、様々な教育実践を通して教育課程との繋がりを考える。学習指導要領の変遷や、新学習指導要領の求めるものを考察することを通して教育課程の編成についての理解を深めるとともに、カリキュラム・マネジメント能力の育成を図る。
授業の目標	教育課程の役割や機能、その編成方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、教育課程に関する基礎的な知識を習得する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	教育活動における教育課程の意義と役割（関係法規を含む）	8	学校における教育課程編成の実際
2	社会に開かれた教育課程とその役割	9	教育課程編成の事例研究
3	時代の変化とともに求められてきた児童生徒像と学習指導要領の変遷	10	教育目標を踏まえたバックワードカリキュラムと指導の実際
4	学校における教育課程編成の意義	11	カリキュラム・マネジメントの理解と事例研究
5	幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の性格と教育課程編成	12	カリキュラム評価の理解と実際
6	中学校・高等学校学習指導要領の性格と教育課程編成	13	現代的な諸課題と教育課程の開発
7	育てたい児童生徒像と教育課程及び指導計画	14	諸外国の教育課程の特色

成績評価方法	定期試験 70%, ミニレポート 30%
教科書	各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省
参考書	『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
授業外の学習方法	毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。（週 2 時間程度） 試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験のある担当者がすべての回を担当する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	保育の計画と評価	高橋 多美子	2	必修	講義

授業の概要	保育計画・評価の意義と内容、方法を学ぶ科目である。保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価の意義を理解し、全体的な計画と指導計画の作成方法について、具体例を通して実践的に学ぶ。子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）を概観し、和歌山県をはじめとする現代社会における幼児教育の課題や乳幼児への理解をより深めることをねらう。
授業の目標	保育計画の基本や意義を理解する。 発達段階を考慮し、各年齢に応じた指導案を立てることができる。 保育の評価や、保育の向上について理解する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション	8	保育評価と保育の質の向上
2	保育計画の意義と保育の基本	9	短期・長期の指導計画
3	幼稚園・保育所・認定こども園について	10	指導計画の作成手順(1)（子どもの姿、ねらい、内容）
4	保育カリキュラムの歴史(1)（オーエン・フレーベル、シュタイナー）	11	指導計画の作成手順(2)（環境構成と保育者の援助）
5	保育カリキュラムの歴史(2)（モンテッソーリ、マラグッチ、倉橋惣三）	12	部分指導案の作成
6	3 歳未満児における発達に沿った保育	13	全日指導案の作成
7	3 歳以上児における発達に沿った保育	14	まとめと総括

成績評価方法	定期試験 60%，課題等 20%，受講態度・授業への参加度 20%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『保育所保育指針解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省 『幼稚園教育要領解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)厚生労働省
授業外の学習方法	授業で使用した資料や参考書を熟読し、理解を深めると共に、疑問点等を次回の授業時に質問すること。試験対策、課題作成も含めた週 2 時間程度の学習を行うこと。
免許・資格	保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	保育内容総論	山下　悦子	1	必修	演習

授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づく、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5 領域のねらい及び内容の関連について実践的に学ぶ科目である。保育内容とは保育・幼児教育の特性を具体的に示すものである。保育内容総論では、今日の保育・幼児教育の現状をふまえて、俯瞰的視点で保育内容を捉える。保育・幼児教育における現状と課題、乳幼児の成長・発達、および具体的な生活への理解を深め、保育内容の意義を考察するとともに、保育・幼児教育の特性とその可能性への理解を目指す。テキストや視聴覚教材（映像）を通して、幼稚園教育要領、保育所保育指針における幼児教育の理念・基本、乳幼児期の発達をふまえた幼児教育の方法的特質、各領域におけるねらい及び内容の関連の理解を深めるとともに、ICT 機器の活用方法を学び、幼児教育の指導計画を作成する能力を身につける。
授業の目標	1）乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえた幼稚園・保育所・こども園等における指導の考え方を理解する。 2）乳幼児期の教育・保育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	イントロダクション　乳幼児期の教育・保育の目的と保育内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して、乳幼児期の教育・保育の目的について学ぶと共に、保育内容の意義について考える。	8	遊びと保育内容　遊びを中心とした教育・保育 乳幼児期の遊びを中心とした教育・保育の指導的特性について学ぶ。
2	乳幼児の園生活　園生活と保育内容の5領域 遊びを中心とした乳幼児の園生活の実際と、保育内容の5領域の考え方を学ぶ。	9	遊びと保育内容　「ねらい」と「内容」の設定 各領域の「ねらい」と「内容」について学ぶ。
3	0～1歳児の生活と保育内容 映像資料を通して、0～1歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。	10	遊びと保育内容　遊びを通した総合的な指導 映像資料や教材を基に、領域間の繋がりを考えた総合的な指導について考える。
4	2～3歳児の生活と保育内容 映像資料を通して、2～3歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。	11	保育内容と計画　保育における計画作成の基礎 乳幼児期の保育・教育における計画の意義と構成、作成のポイントについて学ぶ。
5	4～5歳児の生活と保育内容 映像資料を通して、4～5歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。	12	保育内容と計画　保育内容の構成と教材研究、ICTの活用 具体的なテーマをもとに指導案を作成するとともに、資料を基に適切な教材やICT機器の活用法について考える。
6	環境を通した幼児教育・保育　環境構成の在り方 環境を通しての幼児教育・保育の指導的特性と環境構成の考え方について学ぶ。	13	幼稚園・保育所・こども園での教育と小学校教育の接続 保幼小の接続に向けたアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの在り方の現状と課題について学ぶ。
7	環境を通した幼児教育・保育　子どもの発達に応じた教育・保育の展開 映像資料や教材を基に、子どもの発達に応じた教育・保育の展開について学ぶ。	14	まとめ 授業全体を振り返り、今後の学修課題について考察する。

成績評価方法	定期試験の成績 70%,課題レポート 20%,授業へ取り組む姿勢・態度 10%
教科書	適宜、資料を配布する。 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
参考書	なし
授業外の学習方法	週１時間程度、前回授業の復習を行うこと
免許・資格	幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	幼稚園教諭経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	図画工作Ⅰ	戸澗幸夫	1	選必	演習

授業の概要	小学校学習指導要領(図画工作科)の目標・内容を学習指導するための必要な美術・図画工作の専門的技能・知識を高める科目である。造形遊びの活動、絵画表現、立体表現、工作など制作活動や鑑賞活動を通して材料や用具の扱い方など、指導者としての美術や図画工作の基礎基本を学ぶ。
授業の目標	子ども達の心を育て、造形表現活動の楽しさを味わわせると共に造形表現の可能性を引き出し伸ばすことのできる教育者・保育者になるため、教育・保育現場で造形表現活動を展開するための基礎的技能・知識を身に付け、自ら創作を通して感性を磨く。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	授業ガイダンス	8	ざらざら画面に描くⅡ　エスキース
2	スクラッチ技法による表現	9	ざらざら画面に描くⅢ　アクリル絵の具で着彩・完成・鑑賞
3	アボリジナルアートに挑戦Ⅰ(点で遊ぶ)アボリジナルアートの特徴と図の意味を理解	10	モダンテクニック技法によるコラージュⅠ(模様紙の制作)
4	アボリジナルアートに挑戦Ⅱ(点で遊ぶ) 制作・鑑賞	11	モダンテクニック技法によるコラージュⅡ(イメージに合わせて模様紙を貼る)
5	アルミ缶による立体表現の制作方法や留意点を学ぶ	12	モダンテクニック技法によるコラージュⅢ完成・鑑賞
6	アルミ缶による立体表現の制作・鑑賞	13	紙版画による表現Ⅰ　いろんな材料を活用し版づくり
7	ざらざら画面に描くⅠ　ベニヤ板にジェッソと砂により下地作り	14	紙版画による表現Ⅱ　刷りの技法を学ぶ・完成・鑑賞

成績評価方法	制作した作品評価 60%, 演習カードの記述内容 20%, 演習時の取り組み状況 20%
教科書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説　図画工作編』日本文教出版(2018年) 文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
参考書	担当教員が作成した演習カード
授業外の学習方法	次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。(週 1 時間程度)
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当し、各回具体的に発達段階に応じた指導・援助のあり方を説明する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	後期	図画工作Ⅱ	戸澗幸夫	1	選必	演習

授業の概要	小学校学習指導要領(図画工作科)の目標・内容を学習指導するための必要な美術・図画工作の専門的技能・知識を高める科目である。図画工作科教育と学習指導要領の変遷、外国美術教育について学ぶ。また、図画工作科の意義や図工科教育を通して児童が豊かな感性を働かせ創造的に活動することにより、どのような資質・能力を引き出すことができるのかを具体的実践事例から学ぶ。児童一人一人の良さや個性を尊重した学びを考える。
授業の目標	子ども達の心を育て、造形表現活動の楽しさを味わわせると共に造形表現の可能性を引き出し伸ばすことのできる教育者・保育者になるため、教育・保育現場で造形表現活動を展開するための基礎的技能・知識を身につけ、自ら創作を通して感性を磨く。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	小学校学習指導要領(図画工作科)の改善点について考える	8	色鉛筆による風景画制作(下絵)
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の改善点について考える	9	色鉛筆による風景画制作(着彩・完成)制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ
3	レッジョエミリアの幼児造形表現活動の様子を DVD で視聴し、その特徴や良さを話し合う	10	砂粘土制作(土作り)
4	木片による立体表現の制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ	11	砂粘土による立体制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ
5	コースターに猫イラストを描く制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ	12	一枚の紙による絵本づくり ストーリー展開と絵の構想をする
6	ペットボトルの万華鏡づくりの制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ	13	一枚の紙による絵本づくり ペンとパステルで制作・完成
7	線香画による表現の制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ	14	完成した一枚の紙による絵本を、読み聞かせによる発表会・講評会

成績評価方法	制作した作品 60%, 演習カードの記述内容 20%, 演習時の取り組み状況 20%
教科書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版(2018年) 文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
参考書	担当教員が作成した演習カード
授業外の学習方法	次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。(週 1 時間程度)
免許・資格	小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当し、各回具体的に発達段階に応じた指導・援助のあり方を説明する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	音楽Ⅰ	溝口希久生 桐山由香	1	選必	演習

授業の概要	小学校学習指導要領（音楽科）の「表現」領域の学習指導に必要となる基礎的な知識・技能を高める科目である。小学校音楽科の表現領域（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」）の演習を通して、小学校学習指導要領の指導内容や〔共通事項〕を理解する。それを基盤として、小学校音楽科の授業を行う上で必要な基礎的な知識や技能を身に付けることで、豊かな指導のあり方を学ぶ。
授業の目標	「表現」領域の演習を通して、「表現」（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」）の指導内容や〔共通事項〕を理解し、「表現」の授業を行う上で必要な基礎的な知識や技能を身につける。

回	授業のテーマ及び内容		各回　100 分
1	オリエンテーション〔授業の概要、成績評価、「表現」領域について〕	8	器楽表現 (2)〔打楽器によるアンサンブル、リズム・リズムパターン・音の重なり〕
2	歌唱表現 (1)〔「歌唱」の意義、発声や声を合わせて歌う技能、拍・拍子・リズム〕	9	器楽表現 (3)〔リコーダーの音色や響きと技能との関わり〕
3	歌唱表現 (2)〔歌唱指導の方法、拍・旋律〕	10	器楽表現 (4)〔リコーダーによるアンサンブル①、リズム・旋律・音の重なり〕
4	歌唱表現 (3)〔歌唱教材研究①、旋律・反復・変化〕	11	器楽表現 (5)〔リコーダーによるアンサンブル②、音色・反復・変化・呼びかけと答え・音の重なり〕
5	歌唱表現 (4)〔歌唱教材研究②、旋律・問答〕	12	器楽表現 (6)〔様々な楽器によるアンサンブル①旋律・音の重なり〕
6	歌唱表現 (5)〔歌唱教材研究③、旋律・音の重なり〕	13	器楽表現 (7)〔様々な楽器によるアンサンブル②旋律・速度・強弱・音楽の縦と横との関係〕
7	器楽表現 (1)〔器楽の意義、打楽器の奏法と指導法、音色や響きと技能との関わり、拍・拍子・リズム〕	14	器楽表現 (8)〔様々な楽器によるアンサンブル③速度・強弱・音楽の縦と横との関係〕

成績評価方法	定期試験 40%，　歌唱・器楽・「音楽づくり」の基礎技能 40%， 授業へ取り組む姿勢・態度・提出物 20%
教科書	『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省 『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月）文部科学省 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月）厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 『楽譜　たのしいポケット歌集　新版』教育研究社
参考書	授業時、適時資料を配布する。
授業外の学習方法	その回に行われた内容を省察し、十分練習を行い、次回の内容を予習しておくこと（週 2 時間程度）。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	小学校の教職経験を生かし、実践現場での音楽の教授内容を提示する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	音楽Ⅱ	溝口希久生 桐山由香	1	選必	演習

授業の概要	小学校学習指導要領・音楽科の内容「表現」と「鑑賞」領域の学習指導に必要な知識や技能を深める科目である。「音楽Ⅰ」の学修を踏まえ、小学校音楽科の多様な教材を用いた表現活動（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」）と「鑑賞」の演習を通して、小学校学習指導要領・音楽科の「表現」と「鑑賞」領域の指導内容や〔共通事項〕を理解する。それを基盤として、小学校音楽科の授業の指導を行う上で必要な知識や技能を身に付けることで、多様な教材を活用した豊かな指導のあり方を学ぶ。
授業の目標	音楽の表現と鑑賞の演習を通して、表現や鑑賞に関する知識や技能を理解し、音楽の指導を行う上で必要な基礎的な知識や技能を身につけることができる。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション〔授業の概要、成績評価〕 ・歌唱の活動（1）共通教材・低学年（音階・旋律）	8	器楽の活動（4） ・器楽教材の分析（短調・長調）と指揮の方法
2	歌唱の活動（2） ・共通教材・中学年（拍・拍子・問答）、歌の発達	9	鑑賞の活動（1） ・鑑賞活動の特徴
3	歌唱の活動（3） ・共通教材・高学年（リズム・旋律）	10	鑑賞の活動（2） ・指導内容の設定、紹介文
4	歌唱の活動（4） ・歌唱教材の分析と指導の方法	11	鑑賞の活動（3） ・図形 楽譜づくり
5	器楽の活動（1） ・器楽教材の分析（リズム・音色・旋律）と奏法	12	「音楽づくり」の活動（1） ・声による音楽づくり（リズムの重なり）
6	器楽の活動（2） ・器楽教材の分析（リズム・強弱・速度）と指導の方法	13	「音楽づくり」の活動（2） ・和楽器による音楽づくり（リズムパターン）
7	器楽の活動（3） ・器楽教材の分析（音の重なり・形式）と合奏の方法	14	「音楽づくり」の活動（3） ・ 和楽器による音楽づくり（リズムの重なり、音色、速度、強弱）

成績評価方法	課題 30%，表現・鑑賞の技能 40%，授業へ取り組む姿勢・態度・提出物 30%
教科書	『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『楽譜 たのしいポケット歌集 新版』教育研究社
参考書	授業時、適時資料を配布する。 『小学校音楽科の学習指導ー生成の原理による授業デザインー』廣済堂あかつき（平成31年5月） 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年3月） 文部科学省
授業外の学習方法	その回に行われた内容を十分復習して練習し、次回の内容を予習しておくこと（週2時間程度）。
免許・資格	小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	小学校での教職経験を生かし、実践現場での音楽の教授内容を提示する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	生活Ⅰ	秋吉博之	1	選必	演習

授業の概要	小学校生活では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、学校、家庭及び地域の生活に関する内容について、理解を深める。次いで、学校生活に関わる活動や地域に関わる活動を通して、実践的な技能を身につける。
授業の目標	生活科の目標、内容、評価を理解し、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」について、授業構成や指導の実際に関して、授業実践のための知識と基礎的な技能を身につける。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション	8	公共物や公共施設を利用する活動
2	小学校学習指導要領〈生活〉	9	公共物や公共施設を利用する活動の実際(教材作成)
3	学校生活に関わる活動	10	身近な自然の観察(教材作成)
4	学校生活に関わる活動の実際(教材作成)	11	身近な自然の観察の実際(校内)
5	家庭生活に関わる活動	12	身近な自然の観察の実際(校外)
6	家庭生活に関わる活動の実際(教材作成)	13	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動
7	地域に関わる活動	14	活動のまとめ

成績評価方法	課題レポート 50%, 教材作成への取り組み 40%, 授業への取り組み 10%
教科書	『小学校学習指導要領解説 生活編』東洋館出版社(2018年) 文部科学省 『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省
参考書	小学校生活検定教科書(東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、光村図書出版、新興出版社啓林館、日本文教出版)
授業外の学習方法	各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度) 教材作成の実施計画を立て、準備を行うこと。(毎回 30 分程度) 各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度)
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	生活Ⅱ	秋吉博之	1	選必	演習

授業の概要	小学校生活では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、身近な人々・社会及び自然と関わる活動、そして自分自身の生活や成長に関することについて理解を深める。次いで、公共施設の利用や飼育・栽培などの活動を通して、実践的な技能を身につける。
授業の目標	生活科の目標、内容、評価を理解し、「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」について、授業構成や指導の実際に関して、授業実践のための知識と基礎的な技能を身につける。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション	8	植物を育てる活動の実際③収穫
2	小学校学習指導要領〈生活〉	9	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動(教材作成)
3	身近な自然を利用して遊ぶ活動	10	自分自身の生活や成長を振り返る活動(教材作成)
4	身近な自然を利用して遊ぶ活動の実際(教材作成)	11	自分自身の生活や成長を振り返る活動の実際①発表会前半
5	植物を育てる活動(教材作成)	12	自分自身の生活や成長を振り返る活動の実際②発表会後半
6	植物を育てる活動の実際①種蒔	13	自分自身の生活や成長を振り返る活動の実際③発表のまとめ
7	植物を育てる活動の実際②観察	14	活動のまとめ、今後の課題

成績評価方法	課題レポート 50%, 教材作成への取り組み 40%, 授業への取り組み 10%
教科書	『小学校学習指導要領解説 生活編』東洋館出版社(2018年) 文部科学省 『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省
参考書	小学校生活検定教科書(東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、光村図書出版、新興出版社啓林館、日本文教出版)
授業外の学習方法	各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度) 教材作成の実施計画を立て、準備を行うこと。(毎回 30 分程度) 各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度)
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	子どもと環境	秋吉博之	1	選必	演習

授業の概要	幼稚園教育要領の領域「環境」には、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことが示されている。このような幼児の育ちを理解し、屋内外での活動から環境に対する理解を深め、受講者が身近な環境との関わりの中で得た事例について発表をする。これらを通して、「環境」に関わる基本的な知識と技能を身につける。
授業の目標	領域「環境」の理解を深め、教育・保育の現場で実践していくための知識と基礎的な技能を身につける。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	領域「環境」のねらいと意義	8	身近な自然環境(1)植物採集、樹木・葉遊び(作品製作)
2	領域「環境」の内容と活動のあり方	9	身近な自然環境(2)動物との出会い(作品製作)
3	環境に対する幼児の認識(1)探究心	10	身近な自然環境(3)石はどうしてまるい(作品製作)
4	環境に対する幼児の認識(2)ものやひとの認識	11	身近な自然環境(4)虹はどうしてできる(作品製作)
5	環境に関わる幼児の活動や遊び(作品製作)	12	保育内容「環境」の保育計画
6	園外保育における領域「環境」の指導のあり方	13	保育園・幼稚園の環境構成と評価
7	物的環境としての園具、遊具、素材	14	まとめ、授業の評価

成績評価方法	課題レポート 50%, 作品製作への取り組み 40%, 授業への取り組み 10%
教科書	『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省
参考書	『12か月の製作遊び209』新星出版社(2018年4月) 島田由紀子監修
授業外の学習方法	各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度) 作品製作の実施計画を立て、準備を行うこと。(毎回 30 分程度) 各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度)
免許・資格	幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	後期	子どもの表現Ⅰ	戸澗幸夫 桐山由香	1	選必	演習

授業の概要	幼児の表現活動の基礎を学ぶ科目である。音楽表現・造形表現領域を中心に、子どもの表現活動の内容と、発達、保育現場での表現活動の、基礎的理論と実際について、演習を通して体感的に学ぶ。
授業の目標	幼児の表現活動の基礎を学ぶ科目である。音楽表現・造形表現領域を中心に、子どもの表現活動の内容と、発達、保育現場での表現活動の、基礎的理論と実際について、演習を通して体感的に学ぶ。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	オリエンテーション:授業概要の説明(戸澗幸夫)	8	オリエンテーション:音楽表現について(桐山由香)
2	乳幼児の造形表現活動の指導事例をビデオで鑑賞し、環境作り、展開方法を学ぶ(戸澗幸夫)	9	音楽あそび(1) 身体遊びと音楽① 音楽の諸要素に合わせた身体表現(桐山由香)
3	乳幼児の造形的表現活動の発達と特徴について学ぶ(戸澗幸夫)	10	音楽あそび(2) 身体遊びと音楽② 歌に合わせた身体表現(桐山由香)
4	第 4 回以降は具体的に模擬授業を通して、造形表現活動を体験し援助・指導の方法を学ぶ	11	音楽あそび(3) 言葉と音楽① オノマトペと音楽(桐山由香)
5	パクパク人形を作って遊ぼう(戸澗幸夫)	12	音楽あそび(4) 言葉と音楽② 絵本と音楽(桐山由香)
6	オリジナル紙飛行機を作って遊ぼう(戸澗幸夫)	13	音楽あそび(5) 身の回りの音探し① 音素材について(桐山由香)
7	シャボン玉で遊んで形を写そう(戸澗幸夫)	14	音楽あそび(6) 身の回りの音探し② キャンパス音探し(桐山由香)

成績評価方法	【造形表現】(1) 制作した作品 30% (2) 演習カードの記述内容 10% 【音楽表現】(3) レポート提出 30% 【全体】 授業への取り組み 30%
教科書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省
参考書	担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。
授業外の学習方法	【造形表現】次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。 【音楽表現】各回で履修した音楽表現を復習し、次回発表する。 各回 1 時間程度の復習を行うこと。
免許・資格	幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	鍵盤演奏入門	溝口希久生	1	選必	演習

授業の概要	鍵盤楽器演奏初級者を対象とし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要な基礎的・基本的な演奏技能習得をねらいとする。基礎的な音楽の構造を学び、読譜力を身につけながら、保育所・幼稚園・小学校において子どもの音楽表現が引き出せるようなピアノの基礎的な技能を身につける。学生の課題や実態に適した教材の選択と指導を行う。
授業の目標	保育士に必要な基礎的･基本的なピアノ演奏技能を習得する。読譜力、基礎理論を身に付けて、ピアノで基礎的な音楽表現ができる。保育士に必要な弾き歌い、伴奏の基本的なピアノ演奏技能および演奏にかかわる基礎理論を身に付ける。

回	授業のテーマ及び内容		各回　100 分
1	オリエンテーション（授業の進め方、授業評価の説明、楽器の扱い等） ・鍵盤と手の位置・大譜表と指番号	8	移調奏③（ひげじいさん、むすんでひらいて） ・音名と調号 （ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調）
2	右手の旋律奏（マーチ・きらきら星） ・ト音記号の音名、四分休符・音価	9	移調奏④（きらきら星） ・調号と主音
3	左手の旋律奏（マーチ） ・へ音記号の音名、高音部譜表と低音部譜表	10	両手の移調奏①（メリーさんのひつじ） ・ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調の調号
4	両手の旋律奏（マーチ・きらきら星） ・大譜表、音符の部分名称	11	両手の移調奏②（いとまきのうた） ・ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調 ・速度記号・表情記号
5	両手の旋律奏（かえるのうた・ひげじいさん・ちょうちょう） ・音階の種類（長音階）	12	両手の弾き歌い奏 ・弾き歌いのポイント
6	移調奏①（マーチ） ・移調、半音と全音、シャープとフラット	13	発表会にむけた練習 ・発表会へ向けての練習
7	移調奏②（かえるのうた、きらきら星） ・音階（ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調）	14	発表会

成績評価方法	定期試験（課題曲・自由曲）　60%,　課題曲の練習や授業へ取り組む姿勢　40%
教科書	『標準バイエル教則本　全音ピアノライブラリー』全音楽譜出版社出版部(2008 年 12 月) 『こどものうた 100』チャイルド本社(1982 年 4 月）小林 美実
参考書	随時、資料を配布する。
授業外の学習方法	ピアノ演奏は、日々の練習の積み上げが必要となる。その回の授業の内容について十分な復習の練習と次回の授業に向けての予習を週 2 時間程度すること。
免許・資格	保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当する。

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	前期	発達心理学	桑原義登	2	必修	講義

授業の概要	胎生期、乳児期、幼児期、児童期、青年期における人間の成長や発達の過程で生じる課題について発達心理学の視点からとらえる授業である。心身の発達の特徴や、発達の基礎的理論及び研究方法を、最新の研究成果の知見を交えて学ぶ。知的機能、社会性、パーソナリティの発達に焦点を当てながら、その特徴や発達障害、発達に影響を及ぼす要因について考えることで、子ども理解の基礎を培う。
授業の目標	生涯発達の視点から、各発達段階における心身の発達の特徴や発達理論を理解してもらう。発達心理学の知見により、保育や教育現場での発達を踏まえた学習支援及び発達課題や問題行動に対しての基礎となる考え方を理解する。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	発達心理学とは	8	乳児期の運動・社会性・言語の発達
2	発達を促す要因（素質要因と環境要因）	9	幼児期の各領域における発達と学び
3	発達理論について	10	児童期の教科学習における発達と学び
4	ライフサイクルを通した発達課題について	11	反抗期の意味と思春期以降の発達課題
5	学習と学習理論について	12	発達心理学の視点からの生徒指導上の問題行動
6	動機付けと評価について	13	発達心理学の視点からの児童虐待と愛着障害
7	胎児期と周産期のリスクと発達への影響	14	発達期に出現する障害児の理解

成績評価方法	定期試験　70%，授業の最後に行う小レポート　20%，授業への取り組み　10%
教科書	『ベーシック発達心理学』東京大学出版会　開　一夫編
参考書	なし
授業外の学習方法	次回に行われる教科書の内容をよく読んでおくことと、各年齢における子どもの行動の特徴を観察しておくこと（週２時間程度） 試験対策の時間も確保すること。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	児童相談所心理専門職と臨床心理士としてのスクールカウンセラー等の経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業 必・選	授業形態
1	後期	教育心理学	村上凡子	1	必修	演習

授業の概要	教育心理学は、幼児、児童及び生徒といった学習者の発達的特性を踏まえた学習支援について心理学が過去から蓄積してきた基礎的な知識や理論を理解するための科目である。各時期の発達的特性に応じた保育、教育のあり方を学ぶ。主体的な学習を学習者自らが進めていくための学習支援を実践できるよう、認知、行動両面からの学習、記憶、動機づけ、学級集団のしくみ、学習評価等に関する代表的な理論を発達の特徴と関連付けて取り上げる。これらは、保育、教育のすべての領域、教科等に共通して身につけておくべき事項である。
授業の目標	到達目標は 1)様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的なの基礎的事項を実際の保育・教育場面と関連付けて理解していること、 2)子どもの主体的学習を支えるための動機付け、学級集団のしくみと集団づくり、学習評価の在り方に関する教育心理学の理論を発達の特徴と関連付けて理解していること、 3)多様な子どもの心身の発達的特徴を踏まえて、地域の教育的課題と関連付けて、主体的な学習活動を支えるための必要な指導の基礎となる理論を理解していること、の 3 点である。

回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分
1	教育心理学を学ぶ意義と教師の役割ー地域の教育課題を踏まえてー	8	教師期待効果と望ましい教授活動の在り方について検討ーロールプレイングの学びを通してー
2	環境との相互作用としての自己、性格の発達過程	9	学習支援ニーズと学習理論との関連の検討ー適正処遇交互作用理論を踏まえてー
3	基本的生活習慣、社会性、人間関係の発達及び学習過程と支援	10	集団づくりの基礎理論による学級経営計画の作成と検討ーPM理論に焦点を当ててー
4	言語、数量認識等の認知機能の発達及び学習過程	11	学習評価に関する基礎理論と授業・保育設計の基本
5	行動論からみた学習過程とその支援方法についての発表・検討ー条件付けの理論、プログラム学習ー	12	事例検討を通した多様な学習支援ニーズとつまずきへの支援（グループ協同学習）
6	認知論からみた学習過程とその支援方法についての発表・検討ー記憶の仕組みを踏まえてー	13	主体的な学習活動を成立させるための授業記録観察演習
7	学習の動機付けの理論と主体的な学習活動との関連	14	主体的な学習の創造における発達・学習の支援者としての教師の在り方についての討論

成績評価方法	定期試験 70%, 小テスト 15%, 発表 10%, 予習復習課題 5%
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	『授業成立入門』明治図書（昭和 60 年 6 月）吉本均著 『新訂 教授・学習過程論』日本放送出版協会（平成 14 年 4 月）大島純・野島久雄・波多野誼余夫(編著)
授業外の学習方法	1 週間に 1 時間程度の予習復習を行う。その内容は、毎回の要点や感想をノートにまとめ、翌回に向けて配布される予習資料に関して疑問点や意見をノートに書くことである。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

和歌山信愛大学
教育学部　子ども教育学科

〒640-8022　和歌山市住吉町1番地
TEL　:073-488-3120(教学センター)
Mail:kyogaku-c@shinai-u.ac.jp

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿